

2015(平成27)年度

# FD報告書



京都ノートルダム女子大学





## はじめに

本学の FD 活動は、2008（平成 20）年度の FD・自己点検委員会において始まり、いくつかの委員会組織の改変を経て、現在は FD 委員会が担っている。本学は、これまで FD 活動として、授業評価・教育評価アンケート（2008（平成 20）年度～）、FD 講演会・研修会（2009（平成 21）年度～）、オープンクラス（2011（平成 23）年度～）などを実施し、授業内容や方法の改善に組織的に取り組んできた。今年度もこれまでの活動を引き継ぐ形で行った。主な実施内容は以下の通りである。

1. 「学生による授業評価アンケート」は昨年度と同様の形式で実施した。新たな試みとして、今年度から各授業の集計結果を学内で公開し、学生や教職員が閲覧できるようにした。
2. 「大学院生による教育評価アンケート」は、昨年度からの大きな変更点はなかった。
3. 「FD 研修会」は、昨年度と同様に複数の研修会のうち、教員の興味や時間の都合によっていずれかに参加する形で 6 月に 3 回実施した。内容は「大学院 FD」「学生 FD」「アクティブ・ラーニング」であった。
4. 「オープンクラス」は、オープンクラス・ウィークとして前期は 2 週間実施したが、期間延長の要望があったため、後期は 3 週間実施した。
5. 「全学 FD 教員研修会」は、昨年度に引き続き外部講師を招く形で「アクティブ・ラーニング」のスキルについて学んだ。

今年度の FD 活動の中で評価できる点は、大学院 FD に関する研修会を実施できたことである。2015（平成 27）年度「点検・評価報告書」において、研究科独自の教育内容・方法等改善のための研修の機会を設けていないことが改善すべき点として挙げられており、今回、研究科ごとに教育内容や学習環境における課題を議論して、教員間で共有できたことは有意義であった。今後も、点検・評価から出てきた課題を解決する研修を行う、といったように PDCA サイクルをうまく働かせるような仕組みを構築していくことが求められるであろう。

小規模大学である本学のリソースは限られているため、十分な教育改善のための活動は行えていないのが現状であるが、本報告書をご覧いただき、本学の FD 活動に関してお気づきの点があれば、忌憚のない意見を頂戴できれば幸いである。

2016（平成 28）年 3 月

京都ノートルダム女子大学

FD 委員会 委員長 廣瀬 直哉



## 目 次

はじめに	1
I 2015（平成 27）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告	5
1. 実施目的	5
2. 実施方法	5
3. 集計結果	
(1) 【全学部】	9
(2) 【授業形態別】	13
1) 講義	14
2) 演習	16
3) 実習	18
4) 卒業研究	20
(3) 【開講所属別】	23
1) 共通教育科目	24
2) 資格関係	26
3) 英語英文学科専門教育科目	28
4) 人間文化学科専門教育科目	30
5) 人間文化学部共通科目	32
6) 生活福祉文化学部専門教育科目	34
7) 心理学部専門教育科目	36
4. 「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題	39
2015（平成 27）年度 学生による授業評価アンケート 調査用紙	41
II 2015（平成 27）年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告	45
1. 実施目的	45
2. 実施方法	45
3. 集計結果	
(1) 【全研究科】	47
(2) 【研究科・専攻別】	51
1) 人間文化研究科	52
2) 人間文化研究科 人間文化専攻	53
3) 人間文化研究科 生活福祉文化専攻	54
4) 心理学研究科	55
5) 心理学研究科 発達・学校心理学専攻	56
6) 心理学研究科 臨床心理学専攻	57
4. 「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題	59
2015（平成 27）年度 大学院生による教育評価アンケート 調査用紙	60
III 2015（平成 27）年度「FD 研修会」実施報告	61
1. 実施概要	61
2. 現状と今後の課題	62

IV	2015（平成 27）年度「オープンクラス」実施報告	65
	1. 実施概要	65
	2. 現状と今後の課題	65
V	2015（平成 27）年度「全学 FD 教員研修会」実施報告	67
	1. 実施概要	67
	2. 現状と今後の課題	67
FD	委員会構成員	69

# I 2015（平成 27）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告

## 1. 実施目的

「学生による授業評価アンケート」は、本学の教育内容や教育方法等の課題を明確にし、質的な向上を図ることを目的に全学的規模で 2008（平成 20）年度から継続的に実施されている。

集計結果が出たのち、教員はそれを踏まえて自己評価をおこない、結果についての所見、改善に向けた今後の取り組みについて学生へフィードバックを行った。

## 2. 実施方法

### 1) 実施期間

前期は、2015（平成 27）年 7 月 1 日(水)～7 月 29 日(水)、後期は、2015（平成 27）年 12 月 10 日(木)～2016（平成 28）年 1 月 27 日(水)に実施した。ただし一部の集中科目等については、実施期間外に実施した。

### 2) 調査対象科目・調査対象者

調査対象科目：2015（平成 27）年度に開講されている学部すべての授業科目を調査対象とした。  
（一部の学外実習科目等を除く）

調査対象者：全学部の学生

### 3) 実施科目数・回収率

開講所属ごとの実施科目数、回収率は以下のとおりである。

学部・学科名等	開講科目数 (a)	授業評価アンケート実施数 (b)	実施率	授業評価アンケート実施科目回収状況		
				履修者数	回収数	回収率
共通教育科目	226	223	98.7 %	7,206	5,609	77.8 %
資格関係	51	48	94.1 %	938	775	82.6 %
英語英文学科専門教育科目	218	209	95.9 %	4,731	3,639	76.9 %
人間文化学科専門教育科目	120	116	96.7 %	1,974	1,541	78.1 %
人間文化学部共通科目	4	4	100.0 %	52	47	90.4 %
生活福祉文化学部専門教育科目	208	200	96.2 %	3,926	3,337	85.0 %
心理学部専門教育科目	147	137	93.2 %	5,563	4,362	78.4 %
計	974	937	96.2 %	24,390	19,310*	79.2 %

\*回収数計には、「卒業研究」の回収数のうち学部学科が不明の6件を含まない。

#### 4) 調査内容

最初に、回答者の属性（学年・所属学部（学科））を尋ね、次に当該科目に関して「授業の状況」「学習の状況」「学習成果（社会人基礎力）」「授業形態項目」「独自設定項目」について尋ねた。設問数は、選択式 19 問 自由記述 2 問である。

「授業形態項目」は、授業形態（講義、演習、実習、卒業研究）によって設問が異なる。調査項目は、2014（平成 26）年度と同様である。

調査項目の一覧は以下のとおりである。

#### 当該科目に関する調査項目と回答形式

##### (1) 調査項目

###### 授業の状況

- (1) 授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった
- (2) 授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は適切であった
- (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた
- (4) 教員の話し方は、わかりやすかった
- (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた
- (6) 授業は興味関心の持てる内容であった
- (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった

###### 学習の状況

- (8) 授業の内容は理解できた
- (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった
- (10) この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学習しましたか  
〔5(2 時間以上)、4(1~2 時間未満)、3(30 分~1 時間未満)、2(30 分未満)、1(0 時間)〕

###### 学習成果（社会人基礎力）

- (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した
- (12) この授業で、「共生・協働する力」が向上した
- (13) この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した
- (14) この授業で、「創造・発信する力」が向上した
- (15) この授業で、「思考・解決する力」が向上した
- (16) この授業で、「主体的に行動する力」が向上した

###### 授業形態項目（講義）

- (17) 教員は、私語の注意など受講マナーを守らせるよう配慮していた
- (18) 黒板の字や視聴覚教材（パワーポイントなど）は見やすかった
- (19) 授業の進むペースは適切であった

###### 授業形態項目（演習）

- (17) 発表や課題提出に対して教員から適切なフィードバックがあった
- (18) 教員とコミュニケーションがとれた
- (19) 授業中に質問や発言を積極的にした

###### 授業形態項目（実習）

- (17) 実習はやりがいがあった
- (18) 授業中に質問や発言を積極的にした



(19) TA などのサポートが役に立った

授業形態項目（卒業研究）

(17) 卒業研究の作成過程・出来栄えに満足している

(18) 指導教員から適切な指導を受けた

(19) 卒業研究作成の過程で、多くの学びがあった

独自設定項目

(20) 担当教員が、独自に設定した項目

自由記述

- ・この科目（授業）について「よかった点」を記入してください。
- ・この科目（授業）について「改善すべき点」を記入してください。

## (2) 回答形式

調査項目(1)~(20)については、以下の6件法で回答させた（調査項目（10）を除く）。

- 5：そう思う
- 4：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：どちらかと言えばそう思わない
- 1：そう思わない
- 0：該当しない

## 5) 実施手順

授業評価アンケートの調査票は、学事課より教員に配付した。各科目の担当教員は、学生に対しアンケートの主旨等を説明した上で調査票を配付した。回答済みの調査票は、担当教員に指名された学生の代表が回収し、学事課へ提出した。

例外的な取り扱いをした科目は以下のとおり。

- ・ 個別指導の授業「Advanced English」は、英語英文学科公開講座（7月1日）の際に研究・情報推進課の職員が調査票を受講学生に配付し、回収した。
- ・ オンライン指導の授業「Reading Lab III」「Writing Lab III」は、履修学生が研究・情報推進課事務室において調査票に回答した。
- ・ オンライン指導の授業「Reading Lab IV」「Writing Lab IV」は、履修する2年次生の別の必修授業にて、研究・情報推進課の職員が調査票を学生に配付し、個々の学生が学事課に提出した。
- ・ 「ノートルダム学Ⅲ」と「卒業研究」は、「ノートルダム学Ⅲ」の授業の際（12月11日、12月18日）に、学事課および研究・情報推進課の職員が調査票を学生に配付し、回収した。

## 6) 結果の集計

調査票の印刷・封入作業および集計処理は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

## 7) 集計結果の教員への通知

科目別集計結果は、前期実施分は2015（平成27）年9月中旬に担当教員に配付した。後期実施分は、専任教員には2016（平成28）年3月9日開催の全学FD教員研修会において配付し、非常勤講師には同日発送の郵便にて送付した。

## **8) 集計結果の学内への公表**

全学部授業のアンケート集計結果（自由記述を除く）は、2015（平成 27）年度前期分より、学事課および研究・情報推進課にて教職員および学生の閲覧に付した。また、2015（平成 27）年度後期分からは、全学部授業のアンケート集計結果（自由記述を除く）を学内限定 Web に掲載した。

なお、集計結果を受けた教員によるフィードバックの内容は、2013（平成 25）年度より学内限定 Web にて公開している。

## 「学生による授業評価アンケート」

### 3.集計結果

#### (1) 【全学部】



## ■集計区分全体

履修者数	24,390	全科目数	974
回答者数	19,316	実施科目数	937

## ■学年

1年次生		2年次生		3年次生		4年次生		科目等履修生		その他		計
6,091	32.1%	6,053	31.9%	4,774	25.1%	2,016	10.6%	22	0.1%	28	0.1%	18,984

## ■所属学部・学科

人間文化学部 英語英文学科		人間文化学部 人間文化学科		生活福祉 文化学部		心理学部		科目等履修生		その他		計
4,814	25.5%	2,835	15.0%	4,757	25.2%	6,438	34.1%	13	0.1%	12	0.1%	18,869

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない

※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

## 【授業の状況】

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	9,709	7,275	1,914	196	130	47	19,271	45	0.757
			50.4%	37.8%	9.9%	1.0%	0.7%	0.2%			
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.3	9,631	6,980	1,992	374	194	82	19,253	63	0.817
			50.0%	36.3%	10.3%	1.9%	1.0%	0.4%			
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.2	8,759	6,917	2,751	494	240	72	19,233	83	0.875
			45.5%	36.0%	14.3%	2.6%	1.2%	0.4%			
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.2	9,264	6,550	2,362	625	384	57	19,242	74	0.928
			48.1%	34.0%	12.3%	3.2%	2.0%	0.3%			
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.2	8,780	6,600	2,702	705	372	80	19,239	77	0.942
			45.6%	34.3%	14.0%	3.7%	1.9%	0.4%			
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	8,752	6,600	2,691	684	438	73	19,238	78	0.956
			45.5%	34.3%	14.0%	3.6%	2.3%	0.4%			
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.4	10,617	6,180	1,764	363	197	73	19,194	122	0.813
			55.3%	32.2%	9.2%	1.9%	1.0%	0.4%			

## 【学習の状況】

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	授業の内容は理解できた	4.1	7,874	7,326	2,846	730	328	72	19,176	140	0.922
			41.1%	38.2%	14.8%	3.8%	1.7%	0.4%			
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	11,399	4,611	2,117	606	301	104	19,138	178	0.915
			59.6%	24.1%	11.1%	3.2%	1.6%	0.5%			
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.5	1,967	2,658	4,050	4,358	5,552	485	19,070	246	1.330
			10.3%	13.9%	21.2%	22.9%	29.1%	2.5%			

## 【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	3.9	6,244	6,969	4,598	666	440	271	19,188	128	0.959
			32.5%	36.3%	24.0%	3.5%	2.3%	1.4%			
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.8	5,663	6,326	5,323	936	576	353	19,177	139	1.014
			29.5%	33.0%	27.8%	4.9%	3.0%	1.8%			
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.8	5,732	6,037	5,348	1,013	671	360	19,161	155	1.043
			29.9%	31.5%	27.9%	5.3%	3.5%	1.9%			
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	5,925	6,714	4,924	796	512	283	19,154	162	0.987
			30.9%	35.1%	25.7%	4.2%	2.7%	1.5%			
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.0	6,599	6,983	4,336	607	414	217	19,156	160	0.950
			34.4%	36.5%	22.6%	3.2%	2.2%	1.1%			
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.8	5,663	6,328	5,437	825	555	312	19,120	196	1.002
			29.6%	33.1%	28.4%	4.3%	2.9%	1.6%			



## 「学生による授業評価アンケート」

### 3.集計結果

#### (2) 【授業形態別】

2015年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(授業形態別)

京都ノートルダム女子大学

■授業形態	授業形態名		履修者数	15,915	全科目数	469
	講義		回答者数	12,623	実施科目数	458

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計					
	3,627	29.2%	4,129	33.3%	3,297	26.6%	1,329	10.7%	12	0.1%	19	0.2%

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計					
	3,194	25.9%	1,804	14.6%	2,969	24.1%	4,356	35.3%	8	0.1%	11	0.1%

※Q10以外 5:そう思う 4:どちらかと言えばそう思う 3:どちらとも言えない 2:どちらかと言えばそう思わない 1:そう思わない 0:該当しない

※Q10 5:2時間以上 4:1~2時間未満 3:30分~1時間未満 2:30分未満 1:0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.3	6,140 48.8%	4,851 38.5%	1,316 10.5%	158 1.3%	100 0.8%	28 0.2%	12,593	30	0.777
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.3	6,083 48.4%	4,593 36.5%	1,419 11.3%	281 2.2%	141 1.1%	56 0.4%	12,573	50	0.839
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.2	5,606 44.6%	4,536 36.1%	1,855 14.8%	357 2.8%	165 1.3%	46 0.4%	12,565	58	0.887
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.2	5,814 46.2%	4,309 34.3%	1,671 13.3%	461 3.7%	284 2.3%	32 0.3%	12,571	52	0.955
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.1	5,424 43.2%	4,398 35.0%	1,925 15.3%	507 4.0%	273 2.2%	40 0.3%	12,567	56	0.963
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.1	5,572 44.3%	4,331 34.4%	1,821 14.5%	496 3.9%	302 2.4%	50 0.4%	12,572	51	0.972
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.4	6,790 54.1%	4,116 32.8%	1,227 9.8%	244 1.9%	140 1.1%	25 0.2%	12,542	81	0.825

【学習の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	授業の内容は理解できた	4.1	4,804 38.3%	4,841 38.6%	2,032 16.2%	564 4.5%	241 1.9%	47 0.4%	12,529	94	0.947
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.3	7,242 58.0%	3,112 24.9%	1,448 11.6%	425 3.4%	210 1.7%	54 0.4%	12,491	132	0.931
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.4	1,062 8.5%	1,472 11.8%	2,533 20.4%	2,978 23.9%	4,057 32.6%	345 2.8%	12,447	176	1.295

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	3.9	3,804 30.4%	4,451 35.5%	3,262 26.0%	506 4.0%	310 2.5%	196 1.6%	12,529	94	0.975
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.8	3,392 27.1%	4,031 32.2%	3,752 30.0%	684 5.5%	422 3.4%	241 1.9%	12,522	101	1.027
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.7	3,348 26.8%	3,769 30.1%	3,870 30.9%	778 6.2%	491 3.9%	254 2.0%	12,510	113	1.058
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.8	3,619 28.9%	4,292 34.3%	3,439 27.5%	584 4.7%	376 3.0%	200 1.6%	12,510	113	1.004
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	3.9	4,065 32.5%	4,495 35.9%	3,043 24.3%	453 3.6%	300 2.4%	154 1.2%	12,510	113	0.968
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.8	3,377 27.1%	3,996 32.0%	3,851 30.9%	622 5.0%	410 3.3%	226 1.8%	12,482	141	1.018

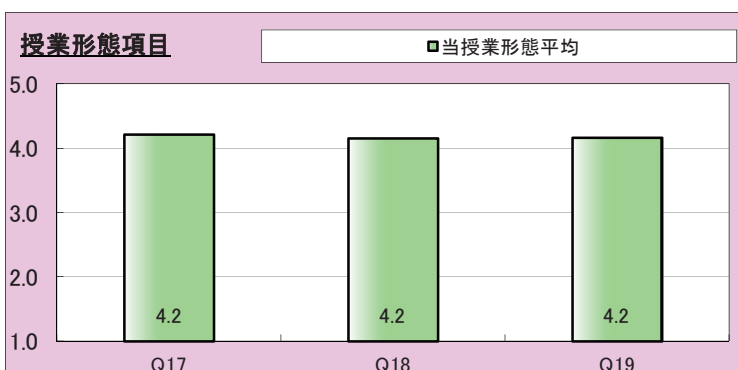
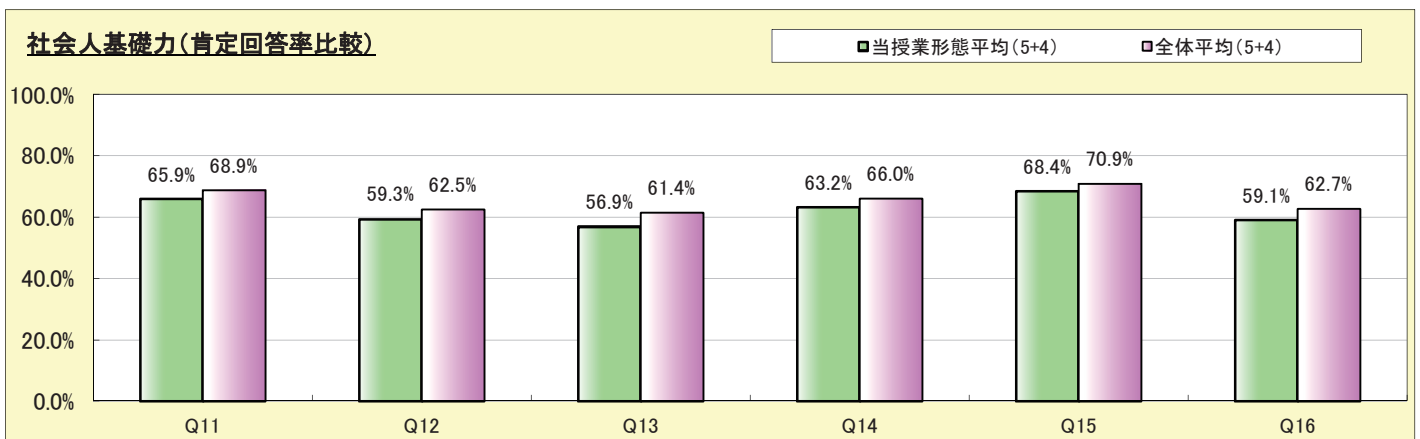
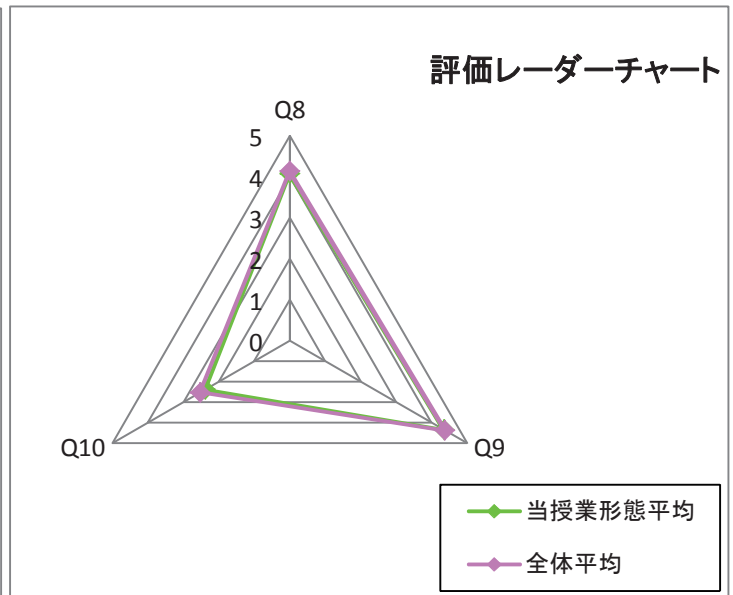
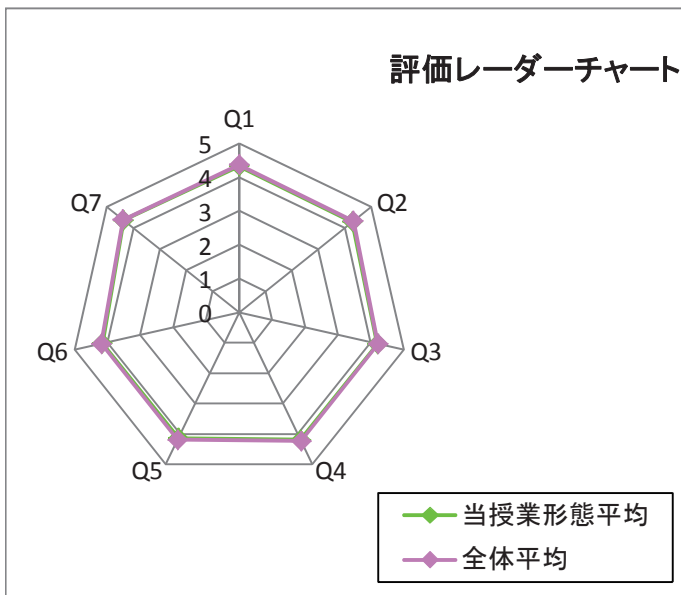


■授業形態	授業形態名
	講義

履修者数	15,915	全科目数	469
回答者数	12,623	実施科目数	458

【授業形態項目 ( 講義 )】

No.	設問文	当授業形態平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q17	教員は、私語の注意など受講マナーを守らせるよう配慮していた	4.2	5,621 45.5%	4,328 35.1%	1,842 14.9%	322 2.6%	163 1.3%	66 0.5%	12,342	281	0.887
Q18	黒板の字や視聴覚教材(パワーポイントなど)は見やすかった	4.2	5,546 44.9%	4,136 33.5%	1,790 14.5%	510 4.1%	268 2.2%	94 0.8%	12,344	279	0.968
Q19	授業の進むペースは適切であった	4.2	5,450 44.3%	4,240 34.5%	1,877 15.3%	464 3.8%	213 1.7%	48 0.4%	12,292	331	0.938



2015年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(授業形態別)

京都ノートルダム女子大学

■授業形態	授業形態名				履修者数	6,976	全科目数	428
	演習				回答者数	5,684	実施科目数	404

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
	2,233 40.0%	1,629 29.2%	1,296 23.2%	405 7.3%	10 0.2%	9 0.2%	5,582

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
	1,314 23.7%	960 17.3%	1,600 28.9%	1,664 30.0%	5 0.1%	1 0.0%	5,544

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない  
 ※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	3,068 54.1%	2,051 36.2%	480 8.5%	31 0.5%	24 0.4%	17 0.3%	5,671	13	0.707
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.4	3,096 54.6%	1,990 35.1%	450 7.9%	73 1.3%	45 0.8%	19 0.3%	5,673	11	0.759
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.3	2,723 48.1%	2,024 35.7%	734 13.0%	102 1.8%	62 1.1%	19 0.3%	5,664	20	0.839
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.3	3,028 53.4%	1,873 33.1%	531 9.4%	139 2.5%	87 1.5%	9 0.2%	5,667	17	0.864
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.3	2,963 52.3%	1,822 32.1%	620 10.9%	160 2.8%	89 1.6%	14 0.2%	5,668	16	0.890
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	2,722 48.1%	1,910 33.7%	731 12.9%	161 2.8%	120 2.1%	18 0.3%	5,662	22	0.929
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.5	3,349 59.3%	1,731 30.7%	409 7.2%	101 1.8%	49 0.9%	8 0.1%	5,647	37	0.778

【学習の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.3	2,620 46.5%	2,118 37.6%	670 11.9%	145 2.6%	75 1.3%	12 0.2%	5,640	44	0.862
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	3,530 62.6%	1,282 22.7%	572 10.1%	160 2.8%	76 1.3%	22 0.4%	5,642	42	0.884
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.7	662 11.8%	935 16.6%	1,319 23.4%	1,268 22.5%	1,343 23.9%	98 1.7%	5,625	59	1.325

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.0	2,025 35.8%	2,160 38.2%	1,163 20.5%	138 2.4%	114 2.0%	60 1.1%	5,660	24	0.922
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	4.0	1,908 33.8%	1,958 34.6%	1,351 23.9%	219 3.9%	132 2.3%	85 1.5%	5,653	31	0.976
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	4.0	2,012 35.6%	1,954 34.6%	1,263 22.3%	195 3.4%	155 2.7%	74 1.3%	5,653	31	0.988
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	4.0	1,919 34.0%	2,069 36.6%	1,295 22.9%	181 3.2%	118 2.1%	64 1.1%	5,646	38	0.946
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.1	2,089 37.0%	2,142 37.9%	1,135 20.1%	129 2.3%	101 1.8%	51 0.9%	5,647	37	0.909
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	4.0	1,885 33.4%	1,999 35.4%	1,394 24.7%	173 3.1%	124 2.2%	68 1.2%	5,643	41	0.954

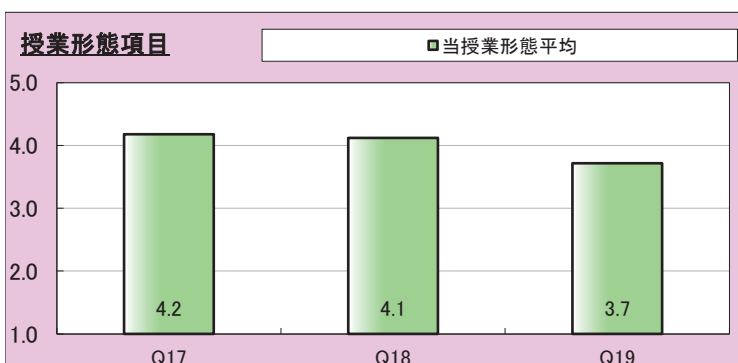
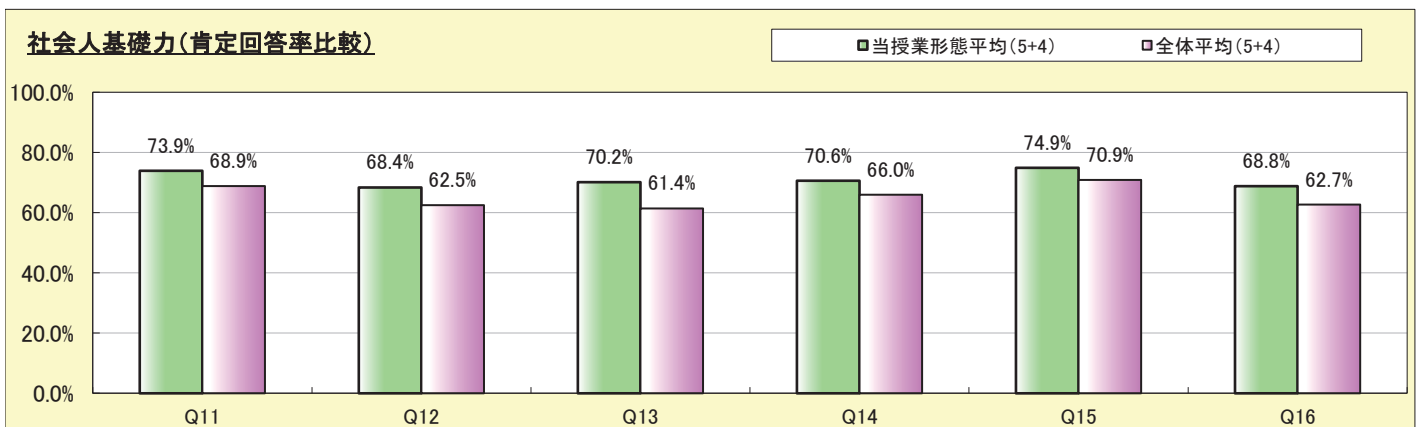
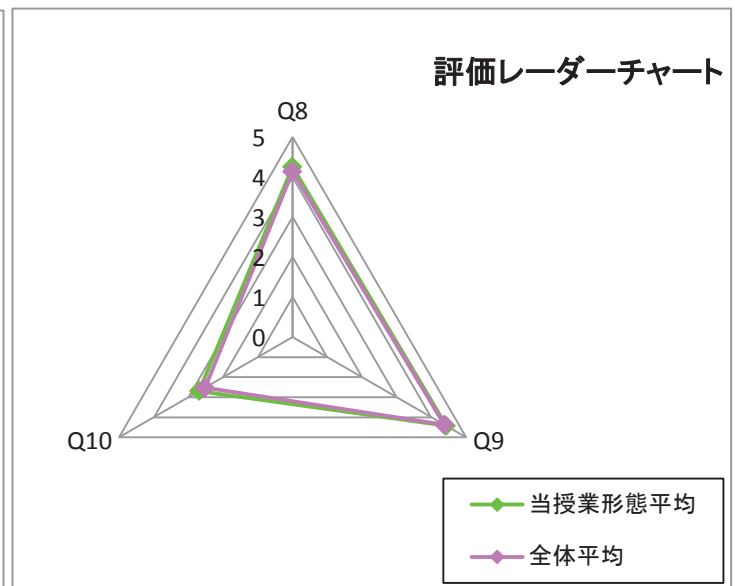
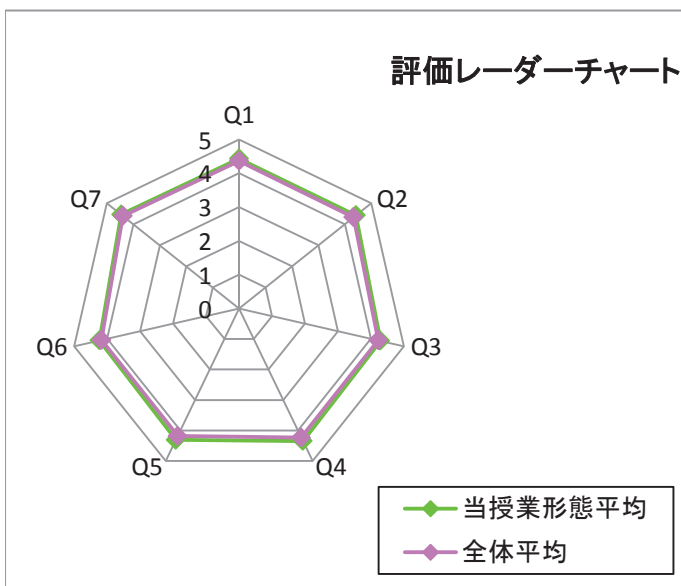
■授業形態

授業形態名
演習

履修者数	6,976	全科目数	428
回答者数	5,684	実施科目数	404

【授業形態項目 ( 演習 )】

No.	設問文	当授業形態平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q17	発表や課題提出に対して教員から適切なフィードバックがあった	4.2	2,468 44.4%	1,916 34.4%	902 16.2%	136 2.4%	104 1.9%	36 0.6%	5,562	122	0.920
Q18	教員とコミュニケーションがとれた	4.1	2,453 44.1%	1,801 32.4%	923 16.6%	202 3.6%	155 2.8%	29 0.5%	5,563	121	0.997
Q19	授業中に質問や発言を積極的にした	3.7	1,706 30.8%	1,577 28.5%	1,423 25.7%	424 7.6%	328 5.9%	85 1.5%	5,543	141	1.159



2015年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(授業形態別)

京都ノートルダム女子大学

■授業形態	授業形態名						履修者数	1,186	全科目数	29
	実習						回答者数	768	実施科目数	27

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
	231 30.7%	295 39.2%	181 24.0%	46 6.1%	0 0.0%	0 0.0%	753

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
	259 34.6%	39 5.2%	120 16.0%	331 44.2%	0 0.0%	0 0.0%	749

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない  
 ※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	429	260	72	3	4	0	768	0	0.721
			55.9%	33.9%	9.4%	0.4%	0.5%	0.0%			
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.3	386	283	76	12	7	4	768	0	0.794
			50.3%	36.8%	9.9%	1.6%	0.9%	0.5%			
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.3	372	262	96	20	11	5	766	2	0.883
			48.6%	34.2%	12.5%	2.6%	1.4%	0.7%			
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.2	353	266	108	15	10	14	766	2	0.867
			46.1%	34.7%	14.1%	2.0%	1.3%	1.8%			
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.2	330	274	112	22	6	23	767	1	0.861
			43.0%	35.7%	14.6%	2.9%	0.8%	3.0%			
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.3	392	259	86	20	9	1	767	1	0.858
			51.1%	33.8%	11.2%	2.6%	1.2%	0.1%			
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.4	406	234	82	8	4	34	768	0	0.771
			52.9%	30.5%	10.7%	1.0%	0.5%	4.4%			

【学習の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	授業の内容は理解できた	4.3	381	271	85	14	9	8	768	0	0.832
			49.6%	35.3%	11.1%	1.8%	1.2%	1.0%			
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.5	523	137	57	14	11	25	767	1	0.832
			68.2%	17.9%	7.4%	1.8%	1.4%	3.3%			
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	3.3	165	193	161	100	114	28	761	7	1.361
			21.7%	25.4%	21.2%	13.1%	15.0%	3.7%			

【学習成果(社会人基礎力)】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.2	351	257	120	13	11	9	761	7	0.880
			46.1%	33.8%	15.8%	1.7%	1.4%	1.2%			
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	4.1	311	246	150	24	13	20	764	4	0.947
			40.7%	32.2%	19.6%	3.1%	1.7%	2.6%			
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	4.1	312	231	147	30	18	23	761	7	1.000
			41.0%	30.4%	19.3%	3.9%	2.4%	3.0%			
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	4.2	323	264	128	21	12	12	760	8	0.914
			42.5%	34.7%	16.8%	2.8%	1.6%	1.6%			
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.3	373	259	99	16	7	7	761	7	0.842
			49.0%	34.0%	13.0%	2.1%	0.9%	0.9%			
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	4.2	334	244	134	22	13	12	759	9	0.936
			44.0%	32.1%	17.7%	2.9%	1.7%	1.6%			

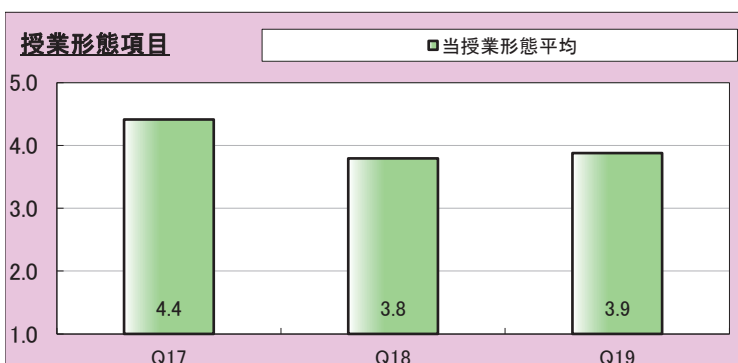
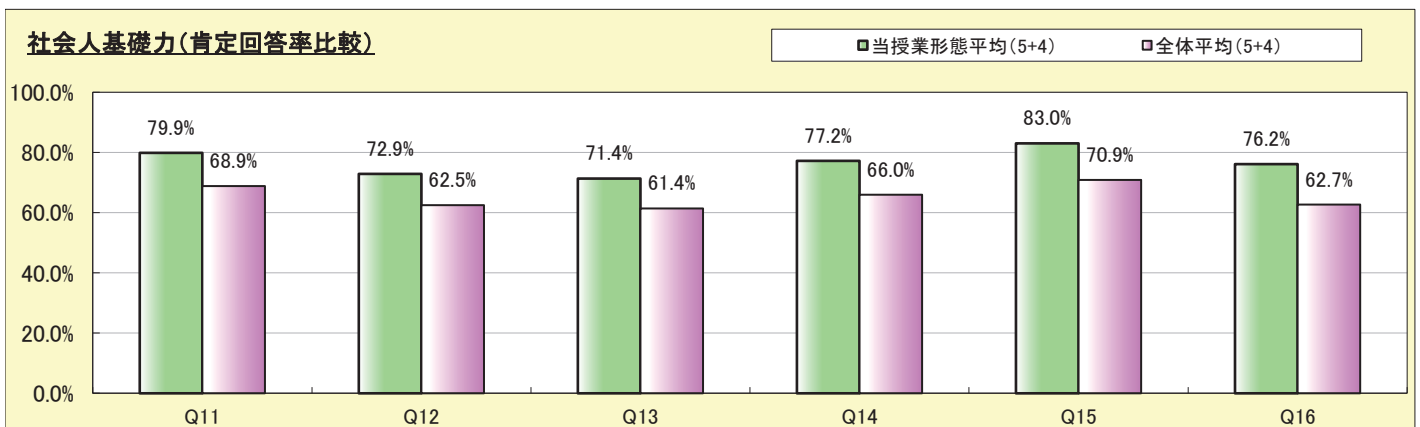
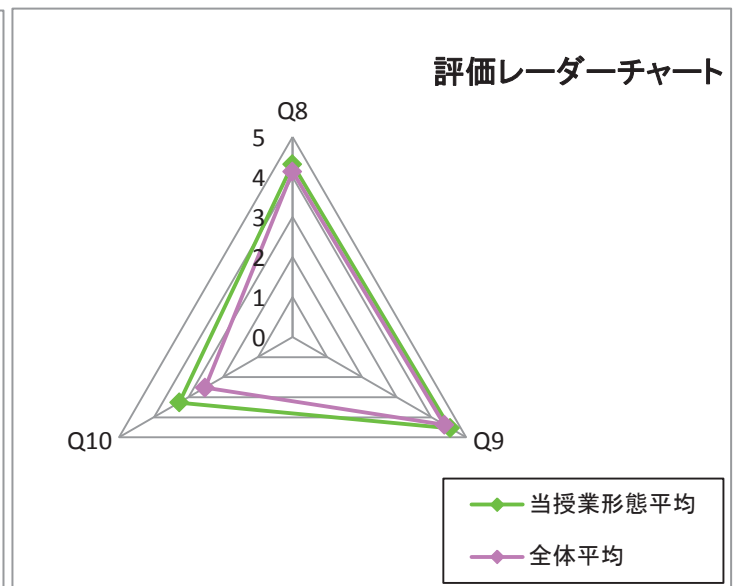
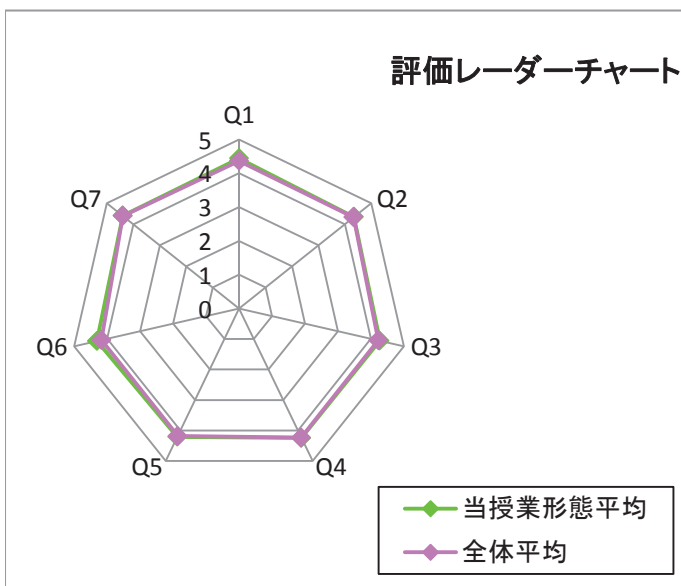
■ 授業形態

授業形態名
実習

履修者数	1,186	全科目数	29
回答者数	768	実施科目数	27

【授業形態項目 ( 実習 )】

No.	設問文	当授業形態平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q17	実習はやりがいがあった	4.4	430	196	72	12	12	19	741	27	0.861
			58.0%	26.5%	9.7%	1.6%	1.6%	2.6%			
Q18	授業中に質問や発言を積極的にした	3.8	233	216	172	51	35	36	743	25	1.124
			31.4%	29.1%	23.1%	6.9%	4.7%	4.8%			
Q19	TAなどのサポートが役に立った	3.9	230	153	167	34	23	121	728	40	1.097
			31.6%	21.0%	22.9%	4.7%	3.2%	16.6%			



2015年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(授業形態別)

京都ノートルダム女子大学

■授業形態	授業形態名		履修者数	310	全科目数	48
	卒業研究		回答者数	241	実施科目数	48

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	236 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	236

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
	47 20.1%	32 13.7%	68 29.1%	87 37.2%	0 0.0%	0 0.0%	234

※Q10以外 5: 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.1	72 30.1%	113 47.3%	46 19.2%	4 1.7%	2 0.8%	2 0.8%	239	2	0.799
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.0	66 27.6%	114 47.7%	47 19.7%	8 3.3%	1 0.4%	3 1.3%	239	2	0.808
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	3.8	58 24.4%	95 39.9%	66 27.7%	15 6.3%	2 0.8%	2 0.8%	238	3	0.906
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	3.9	69 29.0%	102 42.9%	52 21.8%	10 4.2%	3 1.3%	2 0.8%	238	3	0.891
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	3.9	63 26.6%	106 44.7%	45 19.0%	16 6.8%	4 1.7%	3 1.3%	237	4	0.936
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	3.9	66 27.8%	100 42.2%	53 22.4%	7 3.0%	7 3.0%	4 1.7%	237	4	0.945
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.0	72 30.4%	99 41.8%	46 19.4%	10 4.2%	4 1.7%	6 2.5%	237	4	0.916

【学習の状況】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	3.9	69 28.9%	96 40.2%	59 24.7%	7 2.9%	3 1.3%	5 2.1%	239	2	0.883
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.2	104 43.7%	80 33.6%	40 16.8%	7 2.9%	4 1.7%	3 1.3%	238	3	0.927
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	3.6	78 32.9%	58 24.5%	37 15.6%	12 5.1%	38 16.0%	14 5.9%	237	4	1.441

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当授業 形態 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	3.9	64 26.9%	101 42.4%	53 22.3%	9 3.8%	5 2.1%	6 2.5%	238	3	0.919
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.7	52 21.8%	91 38.2%	70 29.4%	9 3.8%	9 3.8%	7 2.9%	238	3	0.980
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.8	60 25.3%	83 35.0%	68 28.7%	10 4.2%	7 3.0%	9 3.8%	237	4	0.983
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.8	64 26.9%	89 37.4%	62 26.1%	10 4.2%	6 2.5%	7 2.9%	238	3	0.963
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	3.9	72 30.3%	87 36.6%	59 24.8%	9 3.8%	6 2.5%	5 2.1%	238	3	0.969
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	67 28.4%	89 37.7%	58 24.6%	8 3.4%	8 3.4%	6 2.5%	236	5	0.989

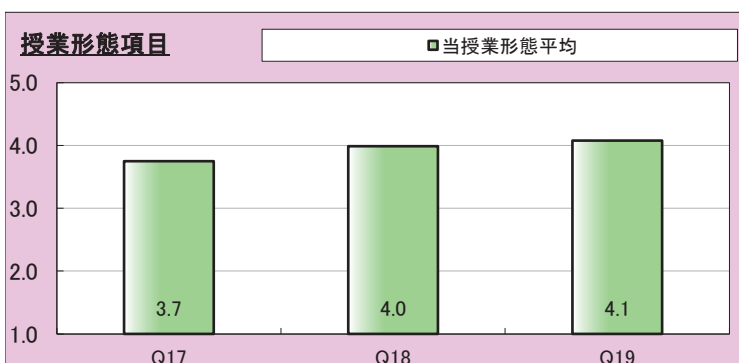
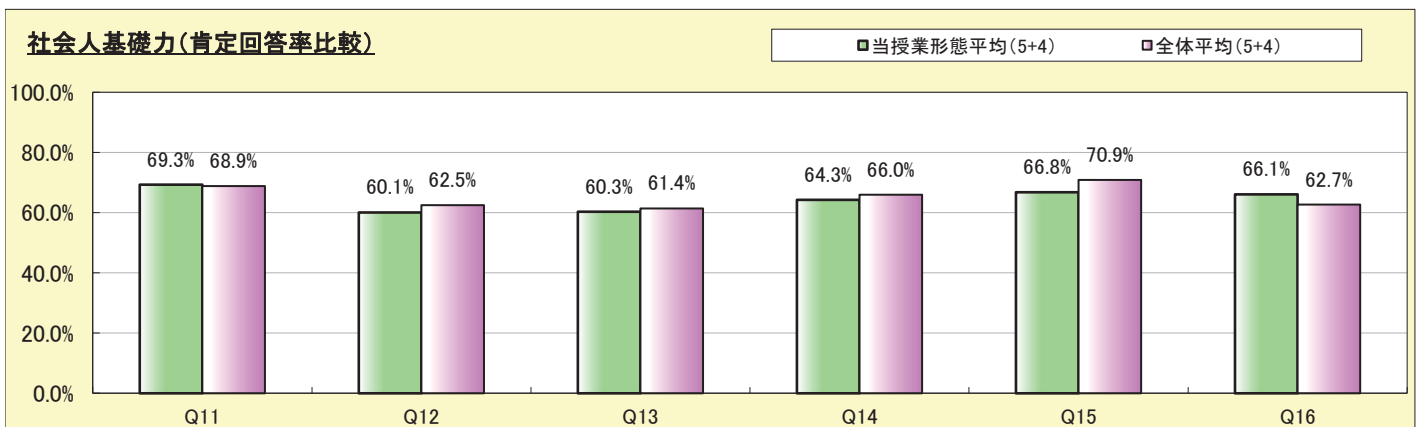
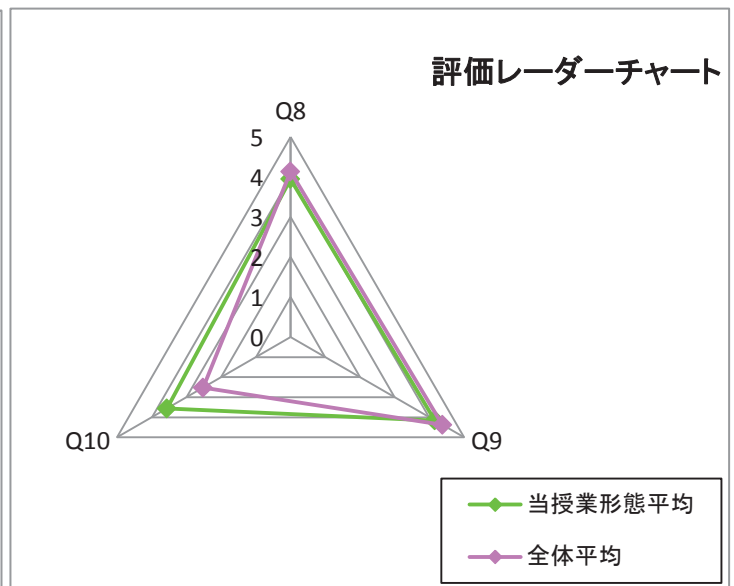
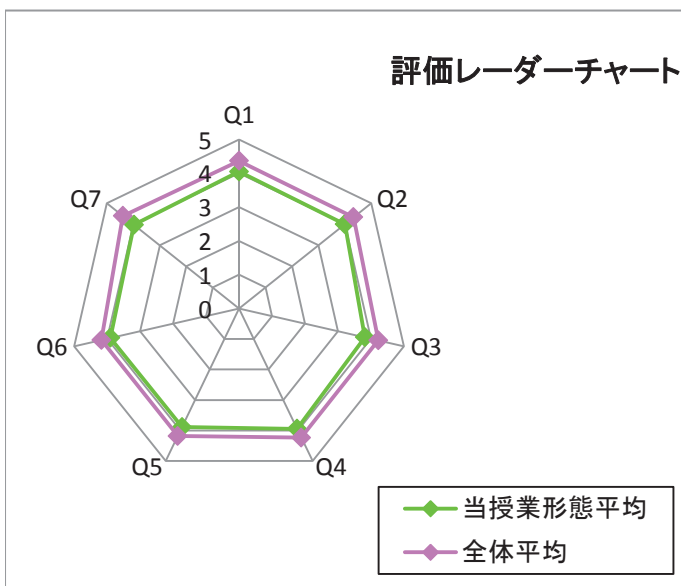
■授業形態

授業形態名	卒業研究
-------	------

履修者数	310	全科目数	48
回答者数	241	実施科目数	48

【授業形態項目 ( 卒業研究 )】

No.	設問文	当授業形態平均点	上段:回答数 / 下段:回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q17	卒業研究の作成過程・出来栄えに満足している	3.7	51 21.7%	106 45.1%	54 23.0%	16 6.8%	8 3.4%	0 0.0%	235	6	0.981
Q18	指導教員から適切な指導を受けた	4.0	84 35.7%	90 38.3%	42 17.9%	12 5.1%	7 3.0%	0 0.0%	235	6	1.004
Q19	卒業研究作成の過程で、多くの学びがあった	4.1	80 34.2%	107 45.7%	36 15.4%	7 3.0%	4 1.7%	0 0.0%	234	7	0.874







## 「学生による授業評価アンケート」

### 3.集計結果

#### (3) 【開講所属別】

2015年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(開講所属別)

京都ノートルダム女子大学

■開講所属	開講所属名				履修者数	7,206	全科目数	226
	共通教育科目				回答者数	5,609	実施科目数	223

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
	3,193 58.0%	1,080 19.6%	712 12.9%	503 9.1%	8 0.1%	10 0.2%	5,506

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
	1,066 19.4%	1,056 19.3%	1,463 26.7%	1,892 34.5%	4 0.1%	4 0.1%	5,485

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない

※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.3	2,744	2,085	624	67	49	19	5,588	21	0.789
			49.1%	37.3%	11.2%	1.2%	0.9%	0.3%			
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.3	2,626	2,050	666	123	81	38	5,584	25	0.862
			47.0%	36.7%	11.9%	2.2%	1.5%	0.7%			
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.1	2,375	1,983	935	161	97	29	5,580	29	0.921
			42.6%	35.5%	16.8%	2.9%	1.7%	0.5%			
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.1	2,355	1,969	862	225	156	22	5,589	20	0.990
			42.1%	35.2%	15.4%	4.0%	2.8%	0.4%			
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.0	2,186	1,927	998	279	165	28	5,583	26	1.020
			39.2%	34.5%	17.9%	5.0%	3.0%	0.5%			
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.0	2,142	1,902	1,014	261	220	46	5,585	24	1.056
			38.4%	34.1%	18.2%	4.7%	3.9%	0.8%			
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.3	2,967	1,813	576	112	81	20	5,569	40	0.855
			53.3%	32.6%	10.3%	2.0%	1.5%	0.4%			

【学習の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.0	2,086	2,068	975	256	136	35	5,556	53	0.980
			37.5%	37.2%	17.5%	4.6%	2.4%	0.6%			
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	3,269	1,305	651	169	110	44	5,548	61	0.943
			58.9%	23.5%	11.7%	3.0%	2.0%	0.8%			
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.4	419	698	1,179	1,221	1,867	142	5,526	83	1.285
			7.6%	12.6%	21.3%	22.1%	33.8%	2.6%			

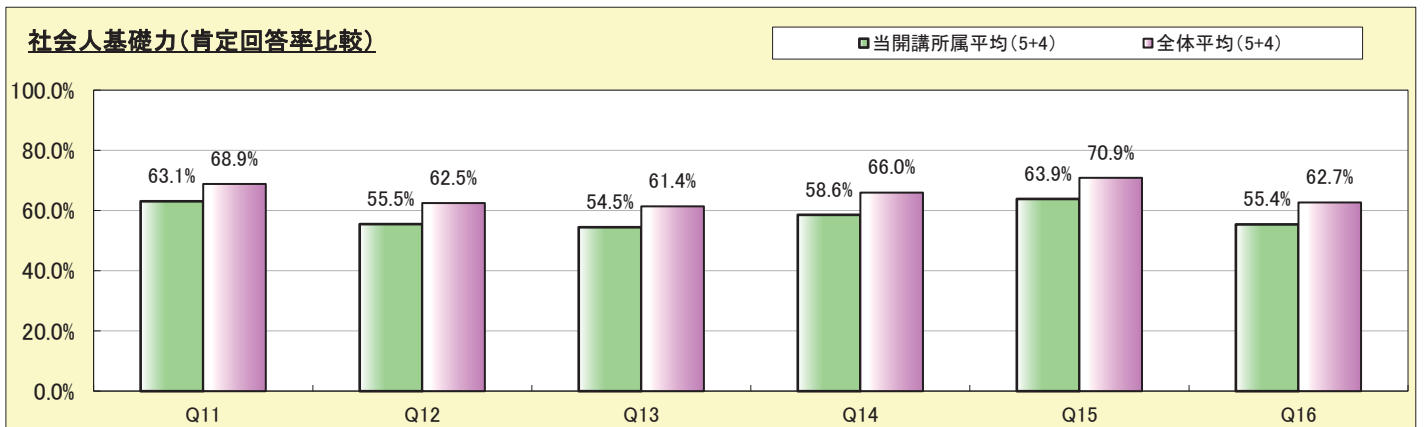
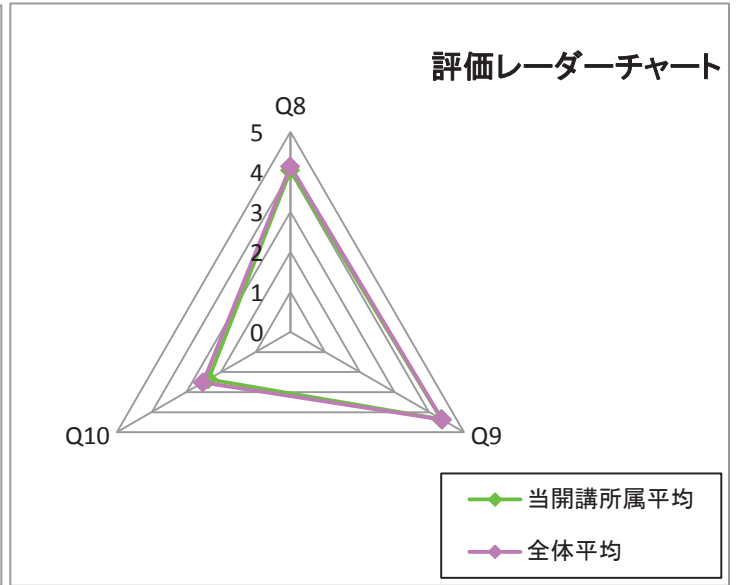
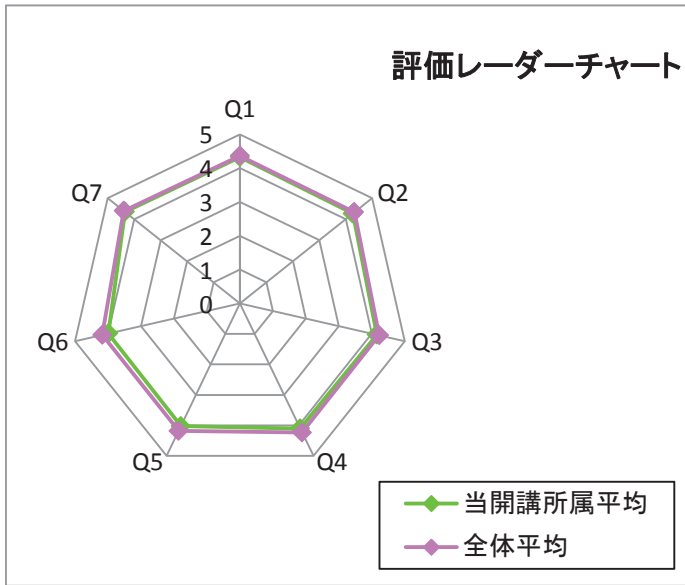
【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	3.8	1,525	1,993	1,527	239	202	89	5,575	34	1.011
			27.4%	35.7%	27.4%	4.3%	3.6%	1.6%			
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.7	1,322	1,767	1,769	335	257	114	5,564	45	1.057
			23.8%	31.8%	31.8%	6.0%	4.6%	2.0%			
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.6	1,337	1,691	1,771	346	299	114	5,558	51	1.087
			24.1%	30.4%	31.9%	6.2%	5.4%	2.1%			
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.7	1,353	1,902	1,672	298	225	104	5,554	55	1.030
			24.4%	34.2%	30.1%	5.4%	4.1%	1.9%			
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	3.8	1,534	2,014	1,497	232	195	82	5,554	55	1.005
			27.6%	36.3%	27.0%	4.2%	3.5%	1.5%			
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.7	1,321	1,750	1,838	281	248	103	5,541	68	1.042
			23.8%	31.6%	33.2%	5.1%	4.5%	1.9%			

■開講所属

開講所属名
共通教育科目

履修者数	7,206	全科目数	226
回答者数	5,609	実施科目数	223



2015年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(開講所属別)

京都ノートルダム女子大学

■開講所属	開講所属名		履修者数	938	全科目数	51
	資格関係		回答者数	775	実施科目数	48

■学年	1年次生		2年次生		3年次生		4年次生		科目等履修生	その他		計
	39	5.1%	243	31.8%	281	36.7%	197	25.8%	5	0.7%	0	0.0%

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科		人間文化学部 人間文化学科		生活福祉 文化学部		心理学部		科目等履修生	その他		計
	136	17.9%	306	40.3%	93	12.3%	221	29.1%	3	0.4%	0	0.0%

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない

※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.3	359 46.4%	294 38.0%	104 13.4%	12 1.6%	4 0.5%	1 0.1%	774	1	0.792
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.2	351 45.4%	281 36.4%	94 12.2%	27 3.5%	17 2.2%	3 0.4%	773	2	0.937
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.0	307 39.7%	255 32.9%	160 20.7%	31 4.0%	18 2.3%	3 0.4%	774	1	0.987
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.1	354 46.0%	250 32.5%	103 13.4%	35 4.5%	25 3.2%	3 0.4%	770	5	1.026
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.1	347 44.8%	252 32.6%	117 15.1%	38 4.9%	18 2.3%	2 0.3%	774	1	0.995
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.1	343 44.4%	257 33.3%	116 15.0%	29 3.8%	24 3.1%	3 0.4%	772	3	1.006
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.4	406 52.5%	263 34.0%	81 10.5%	18 2.3%	4 0.5%	1 0.1%	773	2	0.801

【学習の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.1	310 40.2%	321 41.6%	89 11.5%	36 4.7%	12 1.6%	3 0.4%	771	4	0.909
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	460 59.7%	188 24.4%	80 10.4%	26 3.4%	14 1.8%	2 0.3%	770	5	0.929
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.6	102 13.3%	82 10.7%	164 21.4%	170 22.2%	220 28.8%	27 3.5%	765	10	1.376

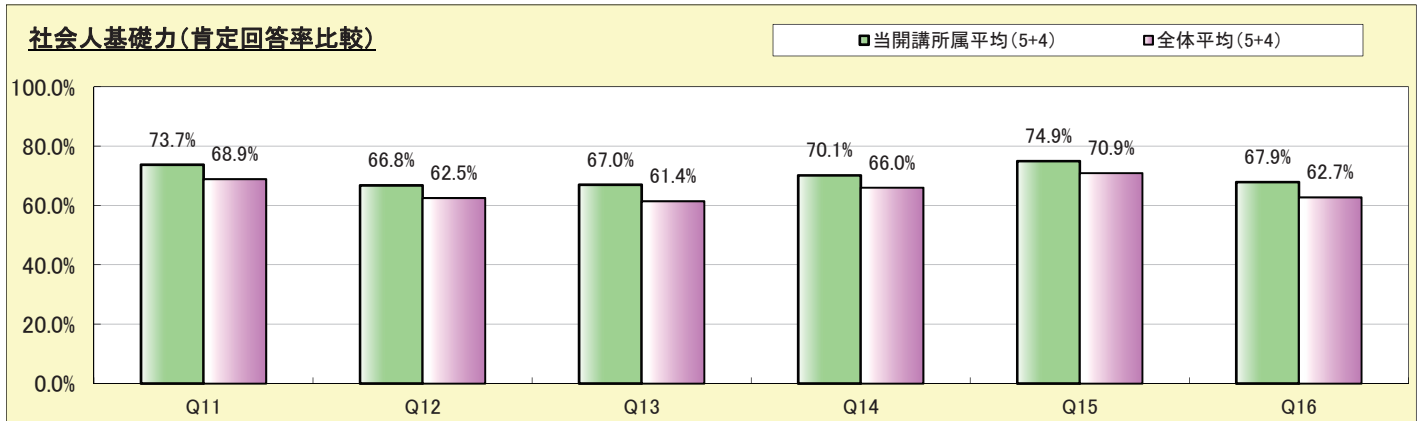
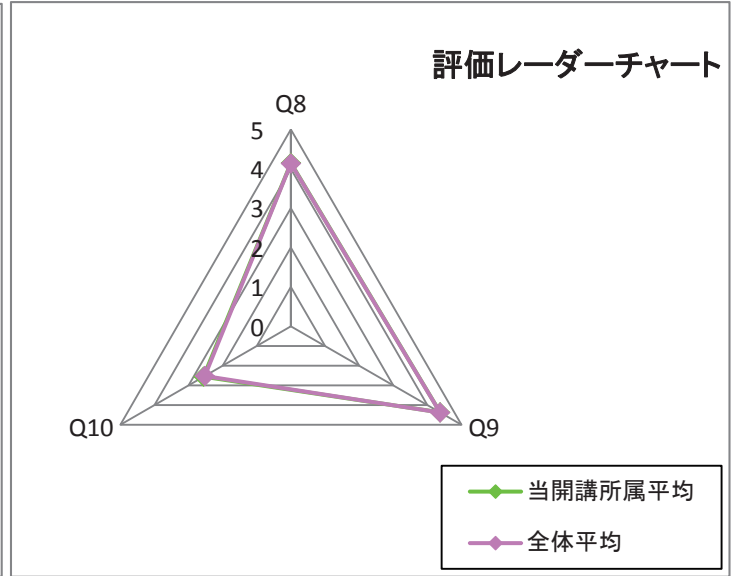
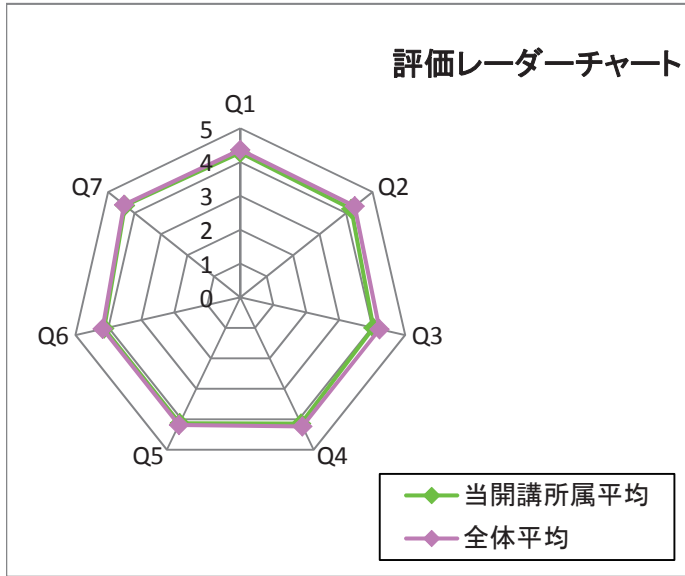
【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.0	277 35.8%	293 37.9%	141 18.2%	28 3.6%	23 3.0%	11 1.4%	773	2	0.983
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	267 34.5%	249 32.2%	174 22.5%	39 5.0%	30 3.9%	14 1.8%	773	2	1.064
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.9	263 34.1%	254 32.9%	174 22.5%	39 5.1%	29 3.8%	13 1.7%	772	3	1.056
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	248 32.2%	292 37.9%	168 21.8%	24 3.1%	26 3.4%	12 1.6%	770	5	0.990
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.1	293 38.1%	284 36.9%	140 18.2%	27 3.5%	18 2.3%	8 1.0%	770	5	0.959
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	256 33.2%	268 34.7%	181 23.4%	32 4.1%	22 2.8%	13 1.7%	772	3	1.000

■開講所属

開講所属名
資格関係

履修者数	938	全科目数	51
回答者数	775	実施科目数	48



2015年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(開講所属別)

京都ノートルダム女子大学

■開講所属	開講所属名		履修者数	4,731	全科目数	218
	英語英文学科専門教育科目		回答者数	3,639	実施科目数	209

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
	1,268 35.5%	1,362 38.1%	671 18.8%	271 7.6%	1 0.0%	0 0.0%	3,573

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
	3,435 96.7%	79 2.2%	7 0.2%	31 0.9%	1 0.0%	0 0.0%	3,553

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない

※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	2,012	1,176	369	39	27	11	3,634	5	0.774
			55.4%	32.4%	10.2%	1.1%	0.7%	0.3%			
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.4	2,001	1,164	362	58	35	11	3,631	8	0.806
			55.1%	32.1%	10.0%	1.6%	1.0%	0.3%			
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.3	1,799	1,214	470	70	50	18	3,621	18	0.866
			49.7%	33.5%	13.0%	1.9%	1.4%	0.5%			
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.3	1,943	1,090	412	89	75	19	3,628	11	0.917
			53.6%	30.0%	11.4%	2.5%	2.1%	0.5%			
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.3	1,892	1,139	399	97	62	31	3,620	19	0.898
			52.3%	31.5%	11.0%	2.7%	1.7%	0.9%			
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.3	1,825	1,176	438	109	71	10	3,629	10	0.923
			50.3%	32.4%	12.1%	3.0%	2.0%	0.3%			
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.4	2,123	1,040	321	53	35	43	3,615	24	0.796
			58.7%	28.8%	8.9%	1.5%	1.0%	1.2%			

【学習の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.2	1,741	1,219	470	113	53	16	3,612	27	0.901
			48.2%	33.7%	13.0%	3.1%	1.5%	0.4%			
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	2,224	832	402	77	34	36	3,605	34	0.846
			61.7%	23.1%	11.2%	2.1%	0.9%	1.0%			
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.9	540	613	905	815	653	61	3,587	52	1.320
			15.1%	17.1%	25.2%	22.7%	18.2%	1.7%			

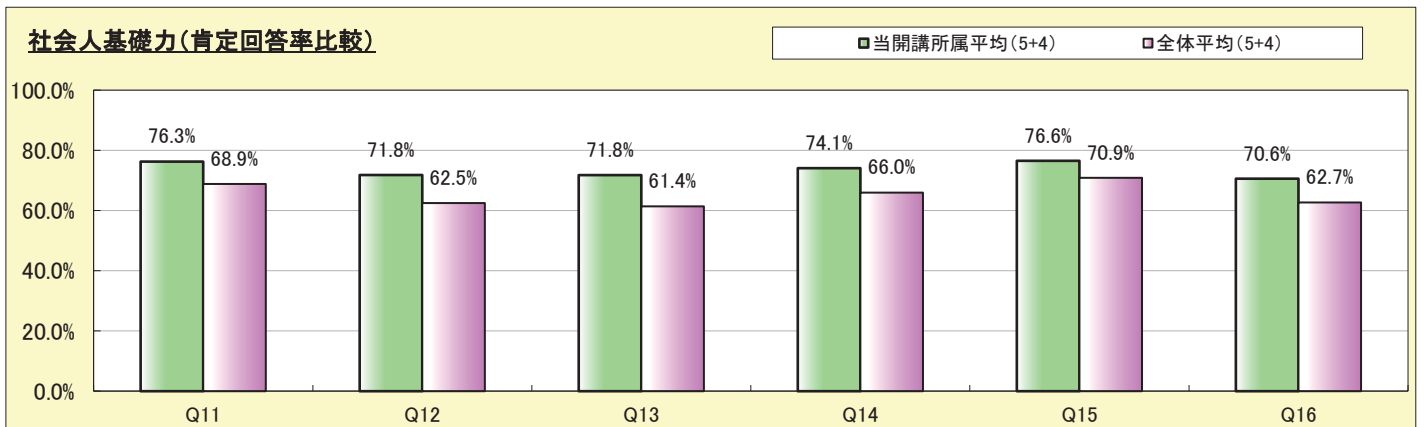
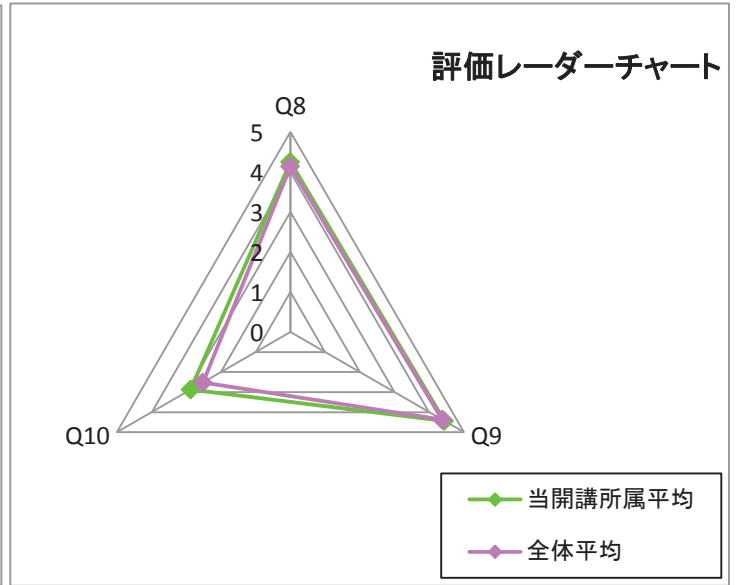
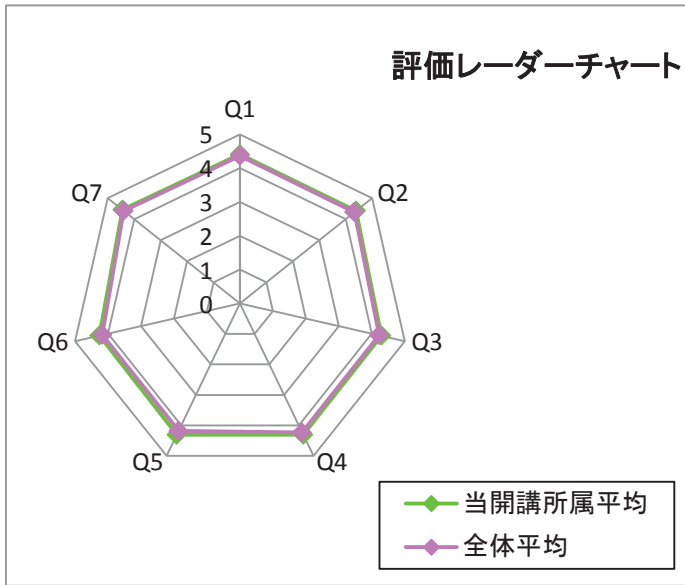
【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.1	1,491	1,273	663	87	65	44	3,623	16	0.920
			41.2%	35.1%	18.3%	2.4%	1.8%	1.2%			
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	4.1	1,393	1,211	784	92	82	63	3,625	14	0.959
			38.4%	33.4%	21.6%	2.5%	2.3%	1.7%			
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	4.1	1,440	1,160	771	102	88	60	3,621	18	0.977
			39.8%	32.0%	21.3%	2.8%	2.4%	1.7%			
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	4.1	1,440	1,242	728	88	74	47	3,619	20	0.940
			39.8%	34.3%	20.1%	2.4%	2.0%	1.3%			
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.2	1,552	1,220	668	75	64	42	3,621	18	0.918
			42.9%	33.7%	18.4%	2.1%	1.8%	1.2%			
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	4.0	1,361	1,189	818	102	82	59	3,611	28	0.967
			37.7%	32.9%	22.7%	2.8%	2.3%	1.6%			

■開講所属

開講所属名
英語英文学科専門教育科目

履修者数	4,731	全科目数	218
回答者数	3,639	実施科目数	209



2015年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(開講所属別)

京都ノートルダム女子大学

■開講所属	開講所属名				履修者数	1,974	全科目数	120
	人間文化学科専門教育科目				回答者数	1,541	実施科目数	116

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
	230 15.2%	550 36.4%	552 36.6%	164 10.9%	2 0.1%	12 0.8%	1,510

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
	105 7.0%	1,341 89.0%	35 2.3%	21 1.4%	0 0.0%	4 0.3%	1,506

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない

※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当開講所属平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.5	916 59.5%	519 33.7%	88 5.7%	10 0.6%	7 0.5%	0 0.0%	1,540	1	0.677
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.5	902 58.5%	507 32.9%	97 6.3%	13 0.8%	8 0.5%	14 0.9%	1,541	0	0.701
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.4	795 51.8%	559 36.4%	147 9.6%	21 1.4%	9 0.6%	5 0.3%	1,536	5	0.762
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.5	938 60.9%	489 31.8%	81 5.3%	22 1.4%	8 0.5%	1 0.1%	1,539	2	0.710
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.5	903 58.7%	478 31.1%	118 7.7%	29 1.9%	10 0.6%	1 0.1%	1,539	2	0.770
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.4	856 55.7%	497 32.3%	134 8.7%	27 1.8%	21 1.4%	2 0.1%	1,537	4	0.826
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.5	959 62.4%	451 29.4%	93 6.1%	23 1.5%	9 0.6%	1 0.1%	1,536	5	0.729

【学習の状況】

No.	設問文	当開講所属平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.4	764 49.7%	609 39.6%	121 7.9%	37 2.4%	4 0.3%	1 0.1%	1,536	5	0.752
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.3	842 55.0%	425 27.7%	165 10.8%	80 5.2%	20 1.3%	0 0.0%	1,532	9	0.946
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.5	152 9.9%	218 14.3%	313 20.5%	390 25.5%	424 27.7%	32 2.1%	1,529	12	1.310

【学習成果 (社会人基礎力)】

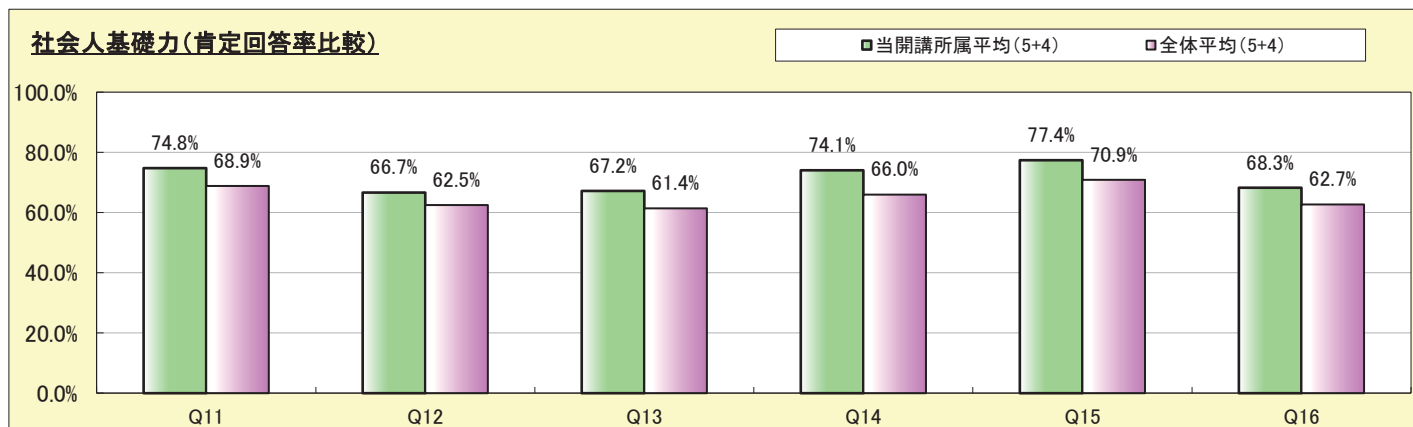
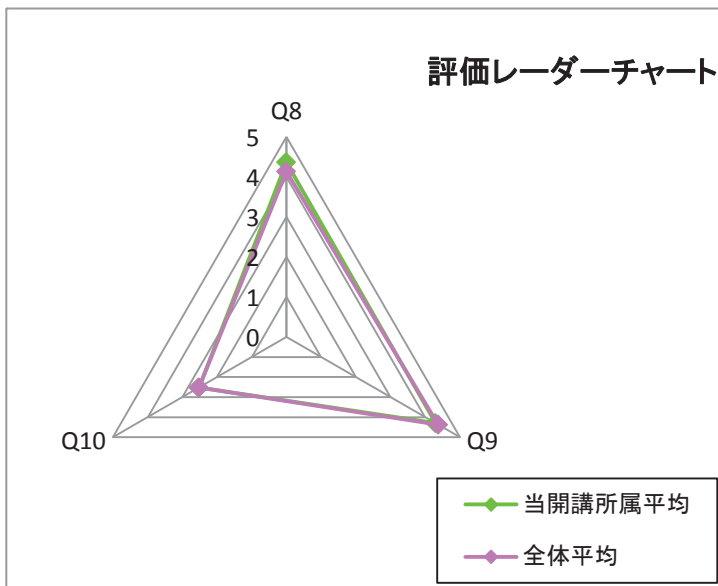
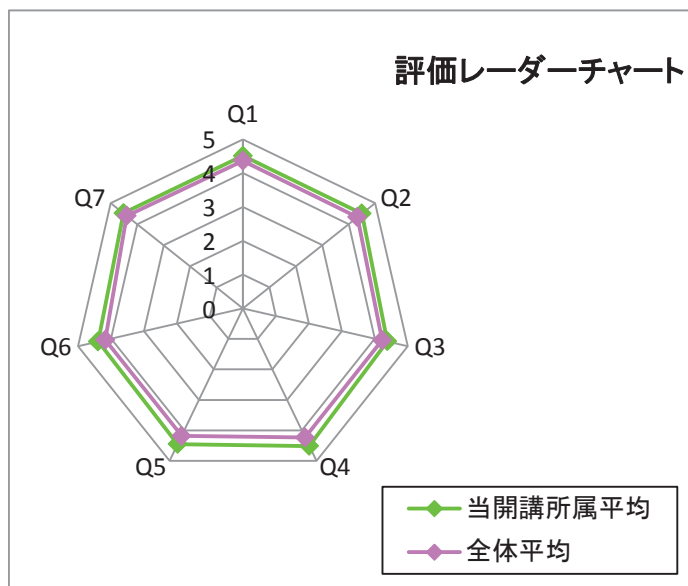
No.	設問文	当開講所属平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.1	590 38.4%	558 36.4%	330 21.5%	27 1.8%	20 1.3%	10 0.7%	1,535	6	0.885
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	513 33.4%	511 33.3%	425 27.7%	44 2.9%	29 1.9%	14 0.9%	1,536	5	0.949
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	4.0	545 35.6%	484 31.6%	402 26.3%	46 3.0%	34 2.2%	20 1.3%	1,531	10	0.975
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	4.1	590 38.4%	547 35.6%	338 22.0%	26 1.7%	23 1.5%	11 0.7%	1,535	6	0.898
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.1	620 40.5%	566 36.9%	296 19.3%	21 1.4%	20 1.3%	9 0.6%	1,532	9	0.868
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	4.0	530 34.6%	516 33.7%	409 26.7%	34 2.2%	28 1.8%	15 1.0%	1,532	9	0.935



■開講所属

開講所属名
人間文化学科専門教育科目

履修者数	1,974	全科目数	120
回答者数	1,541	実施科目数	116



2015年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(開講所属別)

京都ノートルダム女子大学

■開講所属	開講所属名				履修者数	52	全科目数	4
	人間文化学部共通科目				回答者数	47	実施科目数	4

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
	0 0.0%	8 18.2%	30 68.2%	5 11.4%	1 2.3%	0 0.0%	44

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
	36 80.0%	6 13.3%	2 4.4%	0 0.0%	1 2.2%	0 0.0%	45

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない  
 ※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	23 48.9%	20 42.6%	3 6.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.1%	47	0	0.613
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.6	29 61.7%	15 31.9%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.1%	47	0	0.574
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.1	16 34.0%	21 44.7%	8 17.0%	1 2.1%	1 2.1%	0 0.0%	47	0	0.885
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.4	26 55.3%	16 34.0%	5 10.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	47	0	0.678
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.4	27 57.4%	14 29.8%	6 12.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	47	0	0.709
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.4	24 51.1%	19 40.4%	4 8.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	47	0	0.644
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.5	27 57.4%	16 34.0%	4 8.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	47	0	0.648

【学習の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q8	授業の内容は理解できた	4.4	23 48.9%	22 46.8%	1 2.1%	0 0.0%	1 2.1%	0 0.0%	47	0	0.734
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.5	31 67.4%	11 23.9%	3 6.5%	0 0.0%	1 2.2%	0 0.0%	46	1	0.800
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	3.4	8 17.0%	14 29.8%	14 29.8%	4 8.5%	5 10.6%	2 4.3%	47	0	1.195

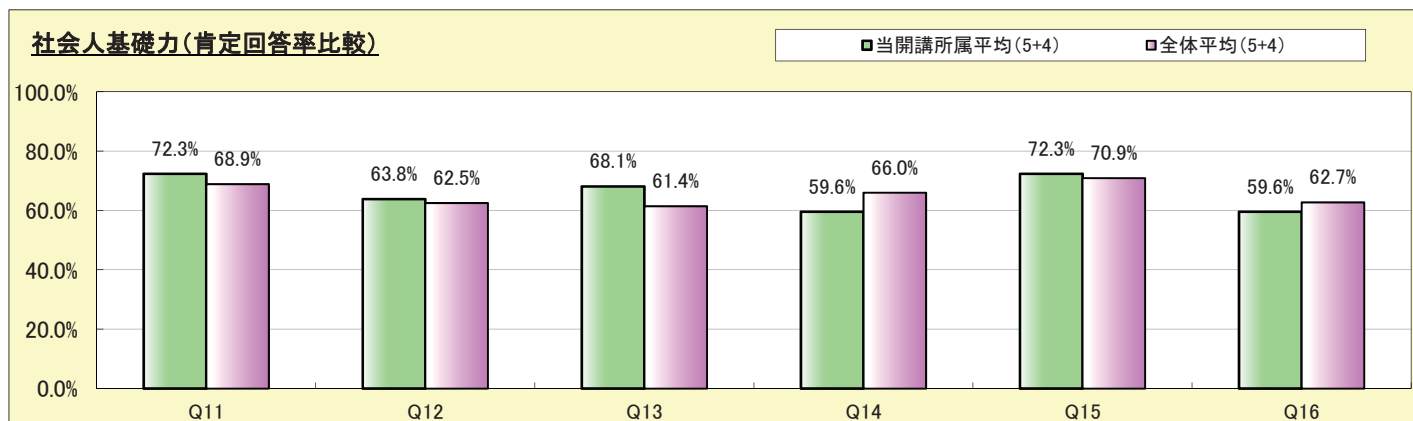
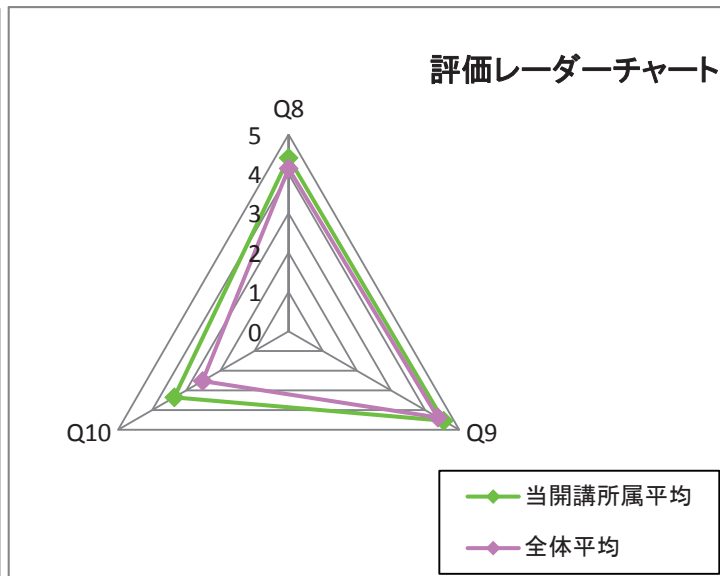
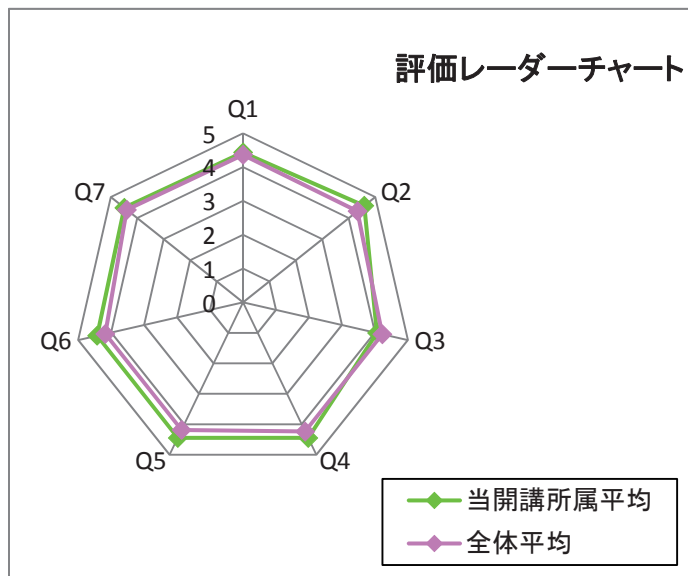
【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差	
			5	4	3	2	1				0
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	3.9	13 27.7%	21 44.7%	9 19.1%	3 6.4%	1 2.1%	0 0.0%	47	0	0.951
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	12 25.5%	18 38.3%	15 31.9%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	47	0	0.850
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.9	14 29.8%	18 38.3%	13 27.7%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	47	0	0.861
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.8	12 25.5%	16 34.0%	16 34.0%	3 6.4%	0 0.0%	0 0.0%	47	0	0.898
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	3.9	13 27.7%	21 44.7%	10 21.3%	2 4.3%	1 2.1%	0 0.0%	47	0	0.919
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.7	11 23.4%	17 36.2%	16 34.0%	2 4.3%	1 2.1%	0 0.0%	47	0	0.933

■開講所属

開講所属名
人間文化学部共通科目

履修者数	52	全科目数	4
回答者数	47	実施科目数	4



2015年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(開講所属別)

京都ノートルダム女子大学

■開講所属	開講所属名				履修者数	3,926	全科目数	208
	生活福祉文化学部専門教育科目				回答者数	3,337	実施科目数	200

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
	558 17.0%	1,344 41.0%	977 29.8%	394 12.0%	2 0.1%	2 0.1%	3,277

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
	23 0.7%	35 1.1%	3,140 96.9%	42 1.3%	2 0.1%	0 0.0%	3,242

※Q10以外 5: 5: 2時間以上 4: 4: 1~2時間未満 3: 3: 30分~1時間未満 2: 2: 30分未満 1: 1: 0時間  
 ※Q10 5: 5: 2時間以上 4: 4: 1~2時間未満 3: 3: 30分~1時間未満 2: 2: 30分未満 1: 1: 0時間

【授業の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.4	1,591 47.8%	1,388 41.7%	319 9.6%	19 0.6%	8 0.2%	4 0.1%	3,329	8	0.698
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.4	1,634 49.2%	1,288 38.8%	334 10.1%	44 1.3%	11 0.3%	9 0.3%	3,320	17	0.742
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.3	1,579 47.5%	1,261 38.0%	399 12.0%	61 1.8%	15 0.5%	6 0.2%	3,321	16	0.786
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.3	1,609 48.5%	1,217 36.7%	377 11.4%	77 2.3%	33 1.0%	5 0.2%	3,318	19	0.834
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.3	1,556 46.8%	1,220 36.7%	434 13.1%	73 2.2%	32 1.0%	8 0.2%	3,323	14	0.840
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	1,540 46.5%	1,201 36.2%	446 13.5%	95 2.9%	26 0.8%	7 0.2%	3,315	22	0.851
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.3	1,692 51.1%	1,184 35.8%	318 9.6%	69 2.1%	38 1.1%	7 0.2%	3,308	29	0.825

【学習の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	授業の内容は理解できた	4.2	1,314 39.7%	1,351 40.9%	489 14.8%	109 3.3%	35 1.1%	8 0.2%	3,306	31	0.867
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.3	1,899 57.6%	856 25.9%	374 11.3%	106 3.2%	56 1.7%	8 0.2%	3,299	38	0.923
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.5	388 11.8%	503 15.3%	607 18.4%	688 20.9%	1,060 32.2%	48 1.5%	3,294	43	1.389

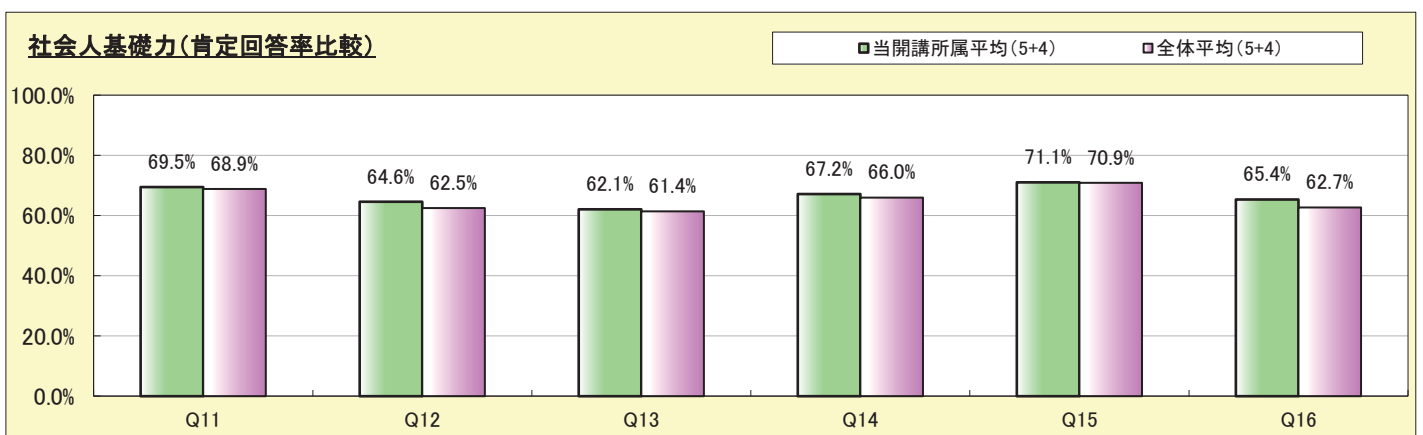
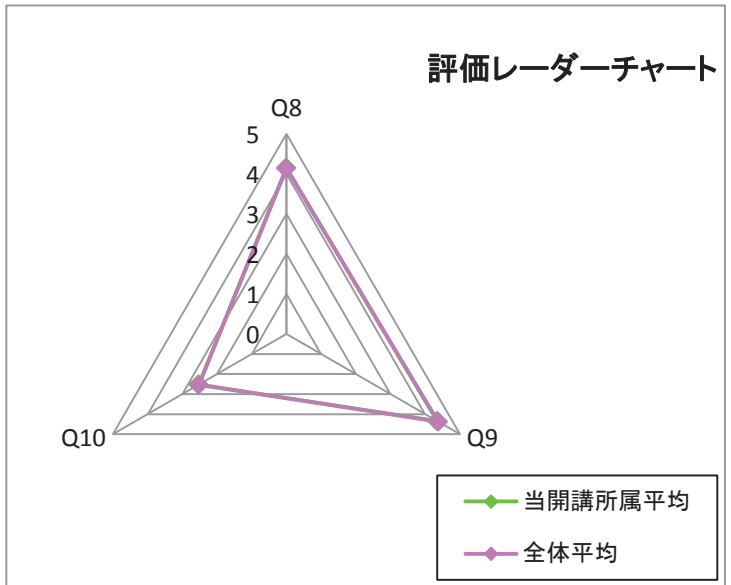
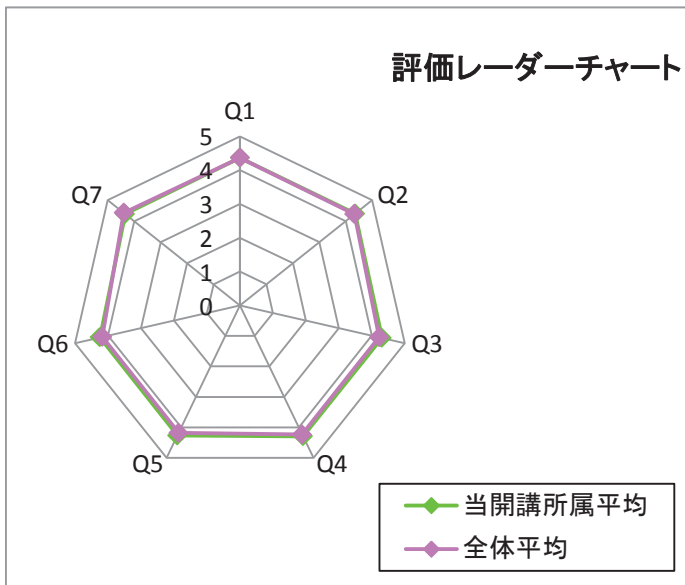
【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	4.0	1,000 30.3%	1,296 39.2%	838 25.4%	97 2.9%	42 1.3%	31 0.9%	3,304	33	0.891
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.9	925 28.0%	1,210 36.6%	937 28.4%	141 4.3%	54 1.6%	37 1.1%	3,304	33	0.934
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.8	928 28.1%	1,125 34.0%	983 29.7%	163 4.9%	64 1.9%	43 1.3%	3,306	31	0.965
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	973 29.5%	1,245 37.7%	891 27.0%	114 3.5%	53 1.6%	26 0.8%	3,302	35	0.919
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.0	1,048 31.7%	1,299 39.3%	798 24.2%	92 2.8%	40 1.2%	26 0.8%	3,303	34	0.886
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.9	927 28.1%	1,228 37.2%	941 28.5%	111 3.4%	57 1.7%	33 1.0%	3,297	40	0.922

■開講所属

開講所属名
生活福祉文化学部専門教育科目

履修者数	3,926	全科目数	208
回答者数	3,337	実施科目数	200



# 2015年度 学生による授業評価アンケート集計結果表(開講所属別)

京都ノートルダム女子大学

■開講所属	開講所属名						履修者数	5,563	全科目数	147
	心理学部専門教育科目						回答者数	4,362	実施科目数	137

■学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	その他	計
	803 18.6%	1,466 34.0%	1,551 36.0%	480 11.1%	3 0.1%	4 0.1%	4,307

■所属学部・学科	人間文化学部 英語英文学科	人間文化学部 人間文化学科	生活福祉 文化学部	心理学部	科目等履修生	その他	計
	13 0.3%	12 0.3%	17 0.4%	4,231 98.9%	2 0.0%	4 0.1%	4,279

※Q10以外 5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない 0: 該当しない

※Q10 5: 2時間以上 4: 1~2時間未満 3: 30分~1時間未満 2: 30分未満 1: 0時間

### 【授業の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	4.3	2,064 47.4%	1,789 41.1%	406 9.3%	48 1.1%	35 0.8%	11 0.3%	4,353	9	0.757
Q2	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4.3	2,088 48.0%	1,671 38.4%	436 10.0%	108 2.5%	42 1.0%	6 0.1%	4,351	11	0.822
Q3	成績評価の仕方が明確に示されていた	4.2	1,887 43.4%	1,621 37.3%	631 14.5%	148 3.4%	50 1.1%	11 0.3%	4,348	14	0.887
Q4	教員の話し方は、わかりやすかった	4.2	2,038 46.9%	1,516 34.9%	521 12.0%	176 4.1%	87 2.0%	7 0.2%	4,345	17	0.943
Q5	教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	4.1	1,869 43.0%	1,566 36.0%	630 14.5%	188 4.3%	84 1.9%	10 0.2%	4,347	15	0.951
Q6	授業は興味関心の持てる内容であった	4.2	2,021 46.5%	1,545 35.5%	539 12.4%	162 3.7%	75 1.7%	5 0.1%	4,347	15	0.921
Q7	授業の教室の広さや設備などは適切であった	4.4	2,442 56.3%	1,410 32.5%	371 8.5%	87 2.0%	29 0.7%	1 0.0%	4,340	22	0.784

### 【学習の状況】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	授業の内容は理解できた	4.1	1,635 37.7%	1,733 39.9%	700 16.1%	178 4.1%	87 2.0%	9 0.2%	4,342	20	0.937
Q9	やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	4.4	2,672 61.7%	991 22.9%	442 10.2%	148 3.4%	65 1.5%	14 0.3%	4,332	30	0.912
Q10	この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	2.4	358 8.3%	527 12.2%	867 20.1%	1,070 24.8%	1,321 30.6%	173 4.0%	4,316	46	1.285

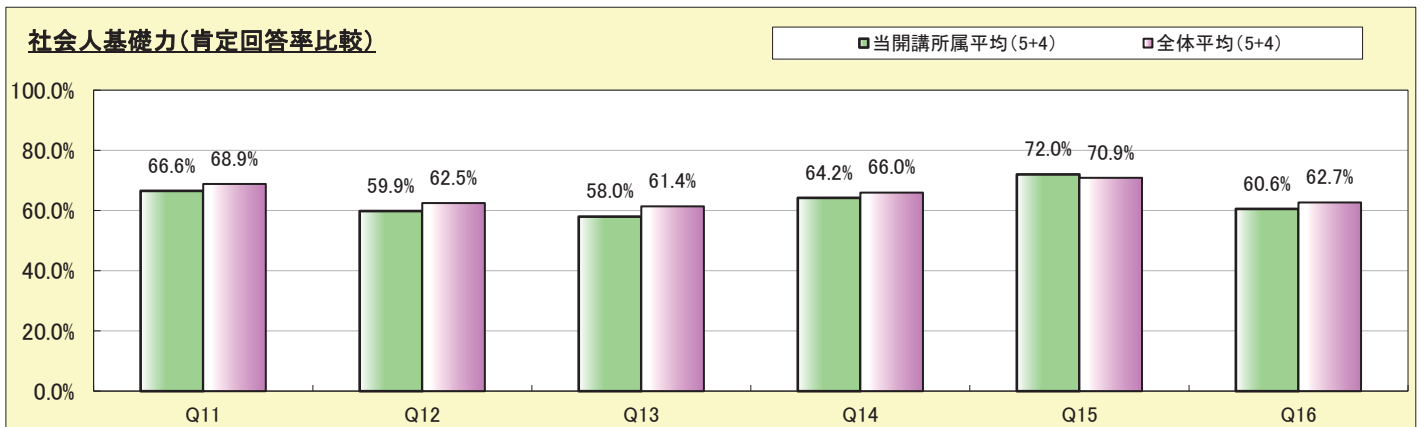
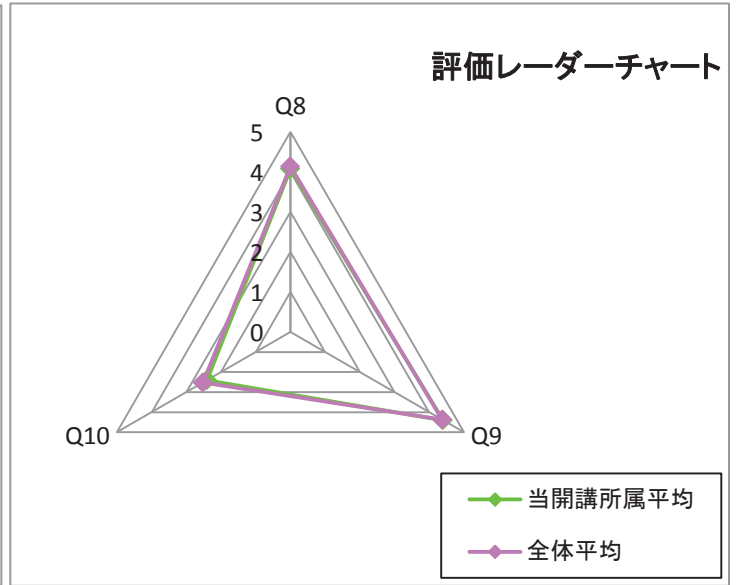
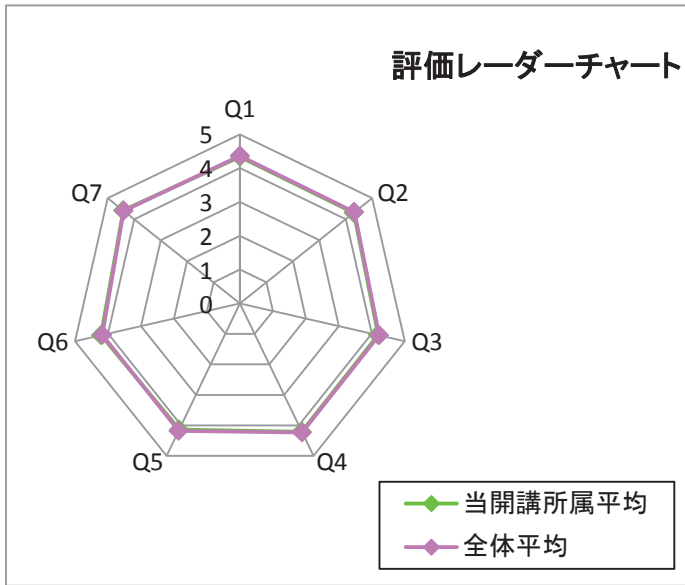
### 【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	当開講 所属 平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)						有効 回答	無効 回答	標準 偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	この授業で、「自分を育てる力」が向上した	3.9	1,348 31.2%	1,531 35.4%	1,089 25.2%	184 4.3%	87 2.0%	86 2.0%	4,325	37	0.962
Q12	この授業で、「共生・協働する力」が向上した	3.8	1,231 28.5%	1,356 31.4%	1,218 28.2%	282 6.5%	124 2.9%	111 2.6%	4,322	40	1.033
Q13	この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	3.7	1,203 27.8%	1,303 30.2%	1,233 28.5%	314 7.3%	157 3.6%	110 2.5%	4,320	42	1.068
Q14	この授業で、「創造・発信する力」が向上した	3.9	1,308 30.3%	1,468 34.0%	1,109 25.7%	242 5.6%	111 2.6%	83 1.9%	4,321	41	1.007
Q15	この授業で、「思考・解決する力」が向上した	4.0	1,538 35.6%	1,576 36.5%	926 21.4%	157 3.6%	76 1.8%	50 1.2%	4,323	39	0.940
Q16	この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	3.8	1,256 29.1%	1,357 31.5%	1,233 28.6%	262 6.1%	117 2.7%	89 2.1%	4,314	48	1.023

■開講所属

開講所属名
心理学部専門教育科目

履修者数	5,563	全科目数	147
回答者数	4,362	実施科目数	137







#### 4. 「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

全学のアンケート結果の「授業の状況」では、(1)「授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった」、(2)「授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は適切であった」等をはじめとして、全て平均が4点以上あり、比較的高い数値を示している。「学習の状況」では、(9)「やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった」では、「5：そう思う」が60%を示し、また(8)「授業の内容は理解できた」も「5：そう思う」が40%以上を示しているので、学習に真面目に取り組んでいる様子が理解できる反面、(10)「この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか」では、29.1%が「1：0時間」と回答するなどかなり低い数値を示している。

開講所属別では、「英語英文学科専門教育科目」の、「授業の状況」では、どの項目も全体平均との大差はない。そして「学習の状況」の(9)「やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった」は、高い数値を示している。(10)「この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか」は、低くなっているが、全体平均より少し高い数値となっている。また「学習成果（社会人基礎力）」では、全ての質問に対しては、全体平均を全て上回っている。

「人間文化学科専門教育科目」の、「授業の状況」では、全てが全体平均を上回っている。そして「学習成果（社会人基礎力）」のどの項目も全体平均を上回り、特に(15)「この授業で、『思考・解決する力』が向上した」の項目が高い数値を示している。しかし(10)「この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか」に関しては、低い数値を示している。

次に「心理学部専門教育科目」の、「授業の状況」では、全体平均とほぼ同じ数値を示している。「学習の状況」では、(9)「やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった」という質問では高い数値を示しているが、(10)「この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか」は、他学科と同じような低い数値である。「学習成果（社会人基礎力）」では、全体平均とほぼ同じ数値を示しているが、(12)「この授業で、『共生・協働する力』が向上した」、(13)「この授業で、『コミュニケーションする力』が向上した」が全体平均より僅かに低い数値である。

「生活福祉文化学部専門教育」の「授業の状況」では、どの項目も全体平均とほぼ同じ数値を示している。「学習の状況」では、(9)「やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった」の数値は高いが、(10)「この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか」は、低い数値になっている。そして「学習成果（社会人基礎力）」を見ると、どの項目も、全体平均と同じか、少し高い数値となっている。

「人間文化学部共通科目」の「授業の状況」では、(2)「授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は適切であった」の数値が高く、それ以外の項目も全体平均と同じかそれ以上の数値となっている。そして「学習の状況」の項目でも、平均を上回っている。「学習成果（社会人基礎力）」でも、全体平均と同じくらいか、高くなっているが、(14)「この授

業で、『創造・発信する力』が向上した」、(16)「この授業で、「主体的に行動する力」が向上した」では、全体平均を少し下回っている。

「共通教育科目」の「授業の状況」では、(7)「授業の教室の広さや設備などは適切であった」は、高い数値を示していた。「学習の状況」では、(8)「授業の内容は理解できた」が、高い数値を示している。「学習成果（社会人基礎力）」では、すべての質問において、全体平均より数値が低く、特に(13)「この授業で、『コミュニケーションする力』が向上した」の数値が低くなっている。

授業形態別では、「講義」の「授業の状況」は、全てが高い数値を示しているものの、「学習の状況」では、(10)「この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学習しましたか」では、低い数値がみられる。また「学習成果（社会人基礎力）」では全ての項目で全体の平均値を下回っている。特に(13)「この授業で、『コミュニケーションする力』が向上した」の数値が低い。

「演習」の、「授業の状況」は、ほぼ全体平均以上の数値を示しているが、「学習の状況」の(10)「この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学習しましたか」は、低い数値である。また「学習成果（社会人基礎力）」では、(13)「この授業で、『コミュニケーションする力』が向上した」は、全体平均をかなり上回っていて、他の項目も、全体平均より高い数値を示している。

「実習」の「授業の状況」は全体平均を上回っている。「学習の状況」も、実習では(10)「この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学習しましたか」は高い数値を示し、全体平均より高い数値を示している。そして「学習成果（社会人基礎力）」においても、それぞれの項目が、全体平均より高い数値を示している。

最後に「卒業研究」の、「授業の状況」および「学習の状況」の、(1)～(9)で全体平均を下回っているが、「学習の状況」の(10)「この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学習しましたか」という項目だけは、卒業研究と言うだけあって、唯一高い数値を示している。しかし「学習成果（社会人基礎学力）」は、全体平均とあまり変わらず、(15)「この授業で、『思考・解決する力』が向上した」では全体平均を下回っている。

文責：吉野 啓子（人間文化学部 英語英文学科 FD 委員）



ご意見・ご要望を  
お聞かせください

# 学生による授業評価アンケート

授業形態項目(講義)  
京都ノートルダム女子大学

2015年度

**(注意事項)**

- ・複数の教員が指導する科目については、当学期にこれまで行われたすべての授業を振り返り、総合的に判断して記入してください。
- ・このアンケートは、授業をよりよくし、本学の教育をさらに充実させるために行うものです。成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して率直に答えてください。また、回答を強制するものではありません。
- ・このアンケート用紙は、回収後、第三者により入力されるため、直接、担当教員が見ることはありません。

**I. あなたの学年の番号にマークしてください。**

- ① 1年次生      ② 2年次生      ③ 3年次生      ④ 4年次生      ⑤ 科目等履修生      ⑥ その他

**II. あなたの所属学部(学科)の番号にマークしてください。**

- ① 人間文化(英語英文)      ② 人間文化(人間文化)      ③ 生活福祉文化      ④ 心理      ⑤ 科目等履修生      ⑥ その他

**III. この科目(授業)について、設問ごとに最もあてはまる回答番号を1つ選び、マークしてください。**

**【授業の状況】**

	5 5 そう思う	4 4 どちらかと言えば そう思う	3 3 どちらとも 言えない	2 2 どちらかと言えば そう思わない	1 1 そう 思わない	0 0 該当 しない
(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	5	4	3	2	1	0
(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	5	4	3	2	1	0
(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた	5	4	3	2	1	0
(4) 教員の話し方は、わかりやすかった	5	4	3	2	1	0
(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	5	4	3	2	1	0
(6) 授業は興味関心の持てる内容であった	5	4	3	2	1	0
(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった	5	4	3	2	1	0

**【学習の状況】**

(8) 授業の内容は理解できた	5	4	3	2	1	0
(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	5	4	3	2	1	0
(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	5 (2時間以上)	4 (1~2時間未満)	3 (90分~1時間未満)	2 (30分未満)	1 (0時間)	0

**【学習成果(社会人基礎力)】**

本学では、卒業時までに養成したい力として「社会人基礎力」を定め、これを具現化する力として6つの力を設定し、各授業科目に位置づけています。

(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(12) この授業で、「共生・協働する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(13) この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(14) この授業で、「創造・発信する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(15) この授業で、「思考・解決する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(16) この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	5	4	3	2	1	0

**【授業形態項目(講義)】**

(17) 教員は、私語の注意など受講マナーを守らせるよう配慮していた	5	4	3	2	1	0
(18) 黒板の字や視聴覚教材(パワーポイントなど)は見やすかった	5	4	3	2	1	0
(19) 授業の進むペースは適切であった	5	4	3	2	1	0

**【独自設定項目】**

(20)	5	4	3	2	1	0
------	---	---	---	---	---	---

**IV. この科目(授業)について「よかった点」を記入してください(自由記述)。**

---



---



---

**V. この科目(授業)について「改善すべき点」を記入してください(自由記述)。**

---



---



---



ご意見・ご要望を  
お聞かせください

# 学生による授業評価アンケート

授業形態項目(演習)  
京都ノートルダム女子大学

2015年度

**(注意事項)**

- ・複数の教員が指導する科目については、当学期にこれまで行われたすべての授業を振り返り、総合的に判断して記入してください。
- ・このアンケートは、授業をよりよくし、本学の教育をさらに充実させるために行うものです。成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して率直に答えてください。また、回答を強制するものではありません。
- ・このアンケート用紙は、回収後、第三者により入力されるため、直接、担当教員が見ることはありません。

**I. あなたの学年の番号にマークしてください。**

- ① 1年次生      ② 2年次生      ③ 3年次生      ④ 4年次生      ⑤ 科目等履修生      ⑥ その他

**II. あなたの所属学部(学科)の番号にマークしてください。**

- ① 人間文化(英語英文)      ② 人間文化(人間文化)      ③ 生活福祉文化      ④ 心理      ⑤ 科目等履修生      ⑥ その他

**III. この科目(授業)について、設問ごとに最もあてはまる回答番号を1つ選び、マークしてください。**

**【授業の状況】**

	5 ⑤ そう思う	4 ④ どちらかと言えば そう思う	3 ③ どちらとも 言えない	2 ② どちらかと言えば そう思わない	1 ① そう 思わない	0 ⑥ 該当 しない
(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	⑤	④	③	②	①	⑥
(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	⑤	④	③	②	①	⑥
(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた	⑤	④	③	②	①	⑥
(4) 教員の話し方は、わかりやすかった	⑤	④	③	②	①	⑥
(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	⑤	④	③	②	①	⑥
(6) 授業は興味関心の持てる内容であった	⑤	④	③	②	①	⑥
(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった	⑤	④	③	②	①	⑥

**【学習の状況】**

	5 ⑤	4 ④	3 ③	2 ②	1 ①	0 ⑥
(8) 授業の内容は理解できた	⑤	④	③	②	①	⑥
(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	⑤	④	③	②	①	⑥
(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	⑤ (2時間以上)	④ (1~2時間未満)	③ (90分~1時間未満)	② (30分未満)	① (0時間)	⑥

**【学習成果(社会人基礎力)】**

本学では、卒業時までには養成したい力として「社会人基礎力」を定め、これを具現化する力として6つの力を設定し、各授業科目に位置づけています。

	5 ⑤	4 ④	3 ③	2 ②	1 ①	0 ⑥
(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した	⑤	④	③	②	①	⑥
(12) この授業で、「共生・協働する力」が向上した	⑤	④	③	②	①	⑥
(13) この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	⑤	④	③	②	①	⑥
(14) この授業で、「創造・発信する力」が向上した	⑤	④	③	②	①	⑥
(15) この授業で、「思考・解決する力」が向上した	⑤	④	③	②	①	⑥
(16) この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	⑤	④	③	②	①	⑥

**【授業形態項目(演習)】**

	5 ⑤	4 ④	3 ③	2 ②	1 ①	0 ⑥
(17) 発表や課題提出に対して教員から適切なフィードバックがあった	⑤	④	③	②	①	⑥
(18) 教員とコミュニケーションがとれた	⑤	④	③	②	①	⑥
(19) 授業中に質問や発言を積極的にした	⑤	④	③	②	①	⑥

**【独自設定項目】**

	5 ⑤	4 ④	3 ③	2 ②	1 ①	0 ⑥
(20)	⑤	④	③	②	①	⑥

**IV. この科目(授業)について「よかった点」を記入してください(自由記述)。**

.....

.....

**V. この科目(授業)について「改善すべき点」を記入してください(自由記述)。**

.....

.....



ご意見・ご要望を  
お聞かせください

# 学生による授業評価アンケート

授業形態項目(実習)  
京都ノートルダム女子大学  
2015年度

**(注意事項)**

- ・複数の教員が指導する科目については、当学期にこれまで行われたすべての授業を振り返り、総合的に判断して記入してください。
- ・このアンケートは、授業をよりよくし、本学の教育をさらに充実させるために行うものです。成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して率直に答えてください。また、回答を強制するものではありません。
- ・このアンケート用紙は、回収後、第三者により入力されるため、直接、担当教員が見ることはありません。

**I. あなたの学年の番号にマークしてください。**

- ① 1年次生      ② 2年次生      ③ 3年次生      ④ 4年次生      ⑤ 科目等履修生      ⑥ その他

**II. あなたの所属学部(学科)の番号にマークしてください。**

- ① 人間文化(英語英文)      ② 人間文化(人間文化)      ③ 生活福祉文化      ④ 心理      ⑤ 科目等履修生      ⑥ その他

**III. この科目(授業)について、設問ごとに最もあてはまる回答番号を1つ選び、マークしてください。**

**【授業の状況】**

	5 5 そう思う	4 4 どちらかと言えば そう思う	3 3 どちらとも 言えない	2 2 どちらかと言えば そう思わない	1 1 そう 思わない	0 0 該当 しない
(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	5	4	3	2	1	0
(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	5	4	3	2	1	0
(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた	5	4	3	2	1	0
(4) 教員の話し方は、わかりやすかった	5	4	3	2	1	0
(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	5	4	3	2	1	0
(6) 授業は興味関心の持てる内容であった	5	4	3	2	1	0
(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった	5	4	3	2	1	0

**【学習の状況】**

(8) 授業の内容は理解できた	5	4	3	2	1	0
(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	5	4	3	2	1	0
(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	5 (2時間以上)	4 (1~2時間未満)	3 (30分~1時間未満)	2 (30分未満)	1 (0時間)	0

**【学習成果(社会人基礎力)】**

本学では、卒業時までには養成したい力として「社会人基礎力」を定め、これを具現化する力として6つの力を設定し、各授業科目に位置づけています。

(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(12) この授業で、「共生・協働する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(13) この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(14) この授業で、「創造・発信する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(15) この授業で、「思考・解決する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(16) この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	5	4	3	2	1	0

**【授業形態項目(実習)】**

(17) 実習はやりがいがあった	5	4	3	2	1	0
(18) 授業中に質問や発言を積極的にした	5	4	3	2	1	0
(19) TAなどのサポートが役に立った	5	4	3	2	1	0

**【独自設定項目】**

(20)	5	4	3	2	1	0
------	---	---	---	---	---	---

**IV. この科目(授業)について「よかった点」を記入してください(自由記述)。**

---

---

---

---

---

**V. この科目(授業)について「改善すべき点」を記入してください(自由記述)。**

---

---

---

---

---



ご意見・ご要望を  
お聞かせください

# 学生による授業評価アンケート

## (注意事項)

- ・複数の教員が指導する科目については、当学期にこれまで行われたすべての授業を振り返り、総合的に判断して記入してください。
- ・このアンケートは、授業をよりよくし、本学の教育をさらに充実させるために行うものです。成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して率直に答えてください。また、回答を強制するものではありません。
- ・このアンケート用紙は、回収後、第三者により入力されるため、直接、担当教員が見ることはありません。

### I. あなたの学年の番号にマークしてください。

- ① 1年次生      ② 2年次生      ③ 3年次生      ④ 4年次生      ⑤ 科目等履修生      ⑥ その他

### II. あなたの所属学部(学科)の番号にマークしてください。

- ① 人間文化(英語英文)      ② 人間文化(人間文化)      ③ 生活福祉文化      ④ 心理      ⑤ 科目等履修生      ⑥ その他

### III. この科目(授業)について、設問ごとに最もあてはまる回答番号を1つ選び、マークしてください。

#### 【授業の状況】

	5 そう思う	4 どちらかと言えば そう思う	3 どちらとも 言えない	2 どちらかと言えば そう思わない	1 そう 思わない	0 該当 しない
(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であった	5	4	3	2	1	0
(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	5	4	3	2	1	0
(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた	5	4	3	2	1	0
(4) 教員の話し方は、わかりやすかった	5	4	3	2	1	0
(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた	5	4	3	2	1	0
(6) 授業は興味関心の持てる内容であった	5	4	3	2	1	0
(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった	5	4	3	2	1	0

#### 【学習の状況】

	5	4	3	2	1	0
(8) 授業の内容は理解できた	5	4	3	2	1	0
(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった	5	4	3	2	1	0
(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか	5 (2時間以上)	4 (1~2時間未満)	3 (30分~1時間未満)	2 (30分未満)	1 (0時間)	0

#### 【学習成果(社会人基礎力)】

本学では、卒業時までまでに養成したい力として「社会人基礎力」を定め、これを具現化する力として6つの力を設定し、各授業科目に位置づけています。

	5	4	3	2	1	0
(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(12) この授業で、「共生・協働する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(13) この授業で、「コミュニケーションする力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(14) この授業で、「創造・発信する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(15) この授業で、「思考・解決する力」が向上した	5	4	3	2	1	0
(16) この授業で、「主体的に行動する力」が向上した	5	4	3	2	1	0

#### 【授業形態項目(卒業研究)】

	5	4	3	2	1	0
(17) 卒業研究の作成過程・出来栄に満足している	5	4	3	2	1	0
(18) 指導教員から適切な指導を受けた	5	4	3	2	1	0
(19) 卒業研究作成の過程で、多くの学びがあった	5	4	3	2	1	0

#### 【独自設定項目】

(20)	5	4	3	2	1	0

### IV. この科目(授業)について「よかった点」を記入してください(自由記述)。

### V. この科目(授業)について「改善すべき点」を記入してください(自由記述)。

## II 2015（平成 27）年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告

### 1. 実施目的

今後の教育内容の改善、また充実した教育プログラムの維持・構築に役立てることを目的とする。本学大学院の教育の質的向上を目指して、全学的規模で「大学院生による教育評価アンケート」を実施した。

### 2. 実施方法

#### 1) 実施期間

2015（平成 27）年 12 月 10 日(木)～2016（平成 28）年 2 月 9 日(火)に実施した。

#### 2) 調査対象者

調査対象者：全研究科の大学院生

#### 3) 在籍者数・回収数・回収率

研究科	専攻科	在籍者数 (名)	回答者数 (名)	回答率
人間文化研究科	応用英語専攻	2	0	0.0%
	人間文化専攻	3	3	100.0%
	生活福祉文化専攻	4	3	75.0%
	研究科計	9	6	66.7%
心理学研究科	発達・学校心理学専攻	3	3	100.0%
	臨床心理学専攻	14	10	71.4%
	研究科計	17	13	76.5%
計		26	19	73.1%

#### 4) 調査内容

最初に、回答者の属性（学年・所属研究科（専攻））を尋ね、次に当該科目に関する以下の項目について尋ねた。設問は選択式 10 問、自由記述 2 問であった。

#### 調査項目

##### (1) 評価項目

選択式

- ① 学位取得のための道筋が明確に示されている
- ② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである
- ③ 授業時間割はバランスよく配置されている
- ④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている
- ⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている

- ⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている
- ⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている
- ⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている
- ⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている
- ⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている

#### 自由記述

- あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「よかった点」を記入してください。
- あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「改善すべき点」を記入してください。

#### (2) 回答形式

選択式設問①～⑩については、以下の5件法で回答させた。

- 5：そう思う
- 4：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：どちらかと言えばそう思わない
- 1：そう思わない

### 5) 実施手順

人間文化研究科応用英語専攻では、調査票を指導教員が大学院生に個別に配付した。人間文化専攻は、「文化学研究実践論」発表会（修士論文構想発表会）および修士論文研究成果発表会において配付した。生活福祉文化専攻は、M1、M2ともに修士論文発表会において配付した。心理学研究科は、修士論文発表会時に配付した。

回収は、各大学院生が教務部学事課に提出した。

### 6) 結果の集計

調査票の印刷・封入作業および集計処理は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

### 7) 教員への結果通知と集計結果の配布

2016（平成28）年3月9日（水）の全学FD教員研修会において、全学および、研究科／専攻ごとの集計結果を専任教員に配付した。



## 「大学院生による教育評価アンケート」

### 3.集計結果

#### (1) 【全研究科】



■専攻

回答者数	19
------	----

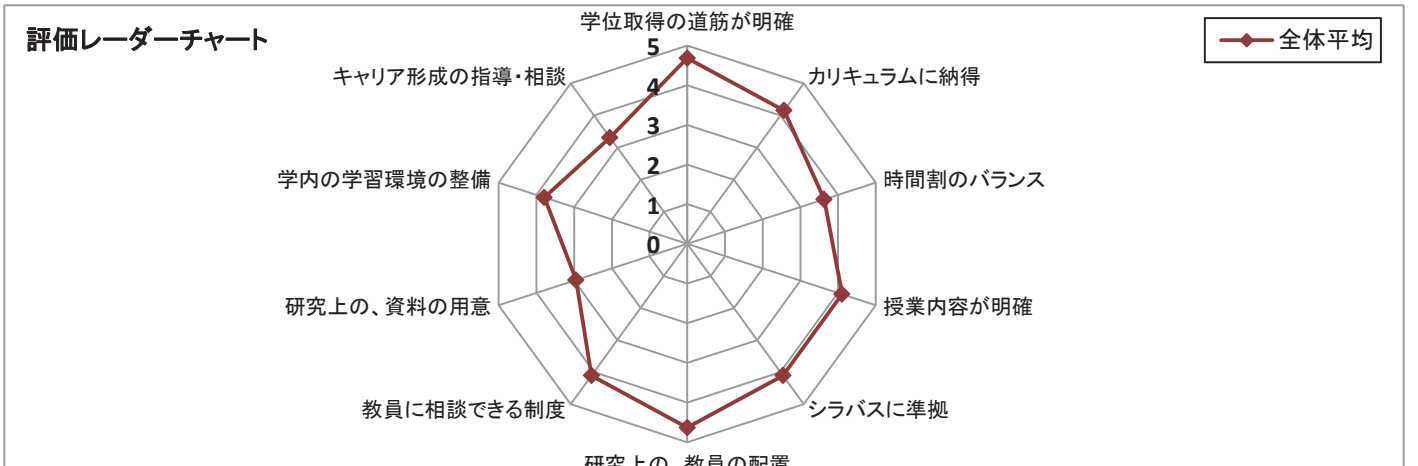
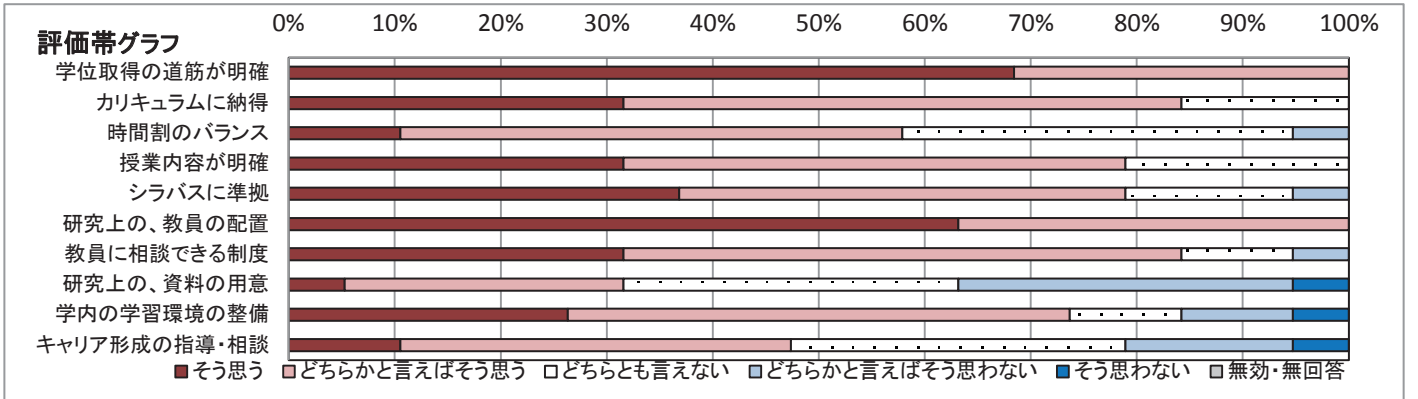
応用英語専攻		生活福祉文化専攻		人間文化専攻		発達・学校心理学専攻		臨床心理学専攻		心理学専攻		科目等履修生		計
0	0.0%	3	15.8%	3	15.8%	3	15.8%	10	52.6%	0	0.0%	0	0.0%	19

■学年

修士課程(M1)		修士課程(M2)		博士前期課程(M1)		博士前期課程(M2)		博士後期課程(D1)		博士後期課程(D2)		博士後期課程(D3)		計
10	52.6%	7	36.8%	0	0.0%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	19

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.7	13 68.4%	6 31.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19	0	0.465
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.2	6 31.6%	10 52.6%	3 15.8%	0 0.0%	0 0.0%	19	0	0.670
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.6	2 10.5%	9 47.4%	7 36.8%	1 5.3%	0 0.0%	19	0	0.741
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.1	6 31.6%	9 47.4%	4 21.1%	0 0.0%	0 0.0%	19	0	0.718
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	7 36.8%	8 42.1%	3 15.8%	1 5.3%	0 0.0%	19	0	0.852
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.6	12 63.2%	7 36.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19	0	0.482
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	6 31.6%	10 52.6%	2 10.5%	1 5.3%	0 0.0%	19	0	0.788
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.9	1 5.3%	5 26.3%	6 31.6%	6 31.6%	1 5.3%	19	0	0.999
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.8	5 26.3%	9 47.4%	2 10.5%	2 10.5%	1 5.3%	19	0	1.104
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	2 10.5%	7 36.8%	6 31.6%	3 15.8%	1 5.3%	19	0	1.029





## 「大学院生による教育評価アンケート」

### 3.集計結果

#### (2) 【研究科・専攻別】

■研究科

回答者数

6

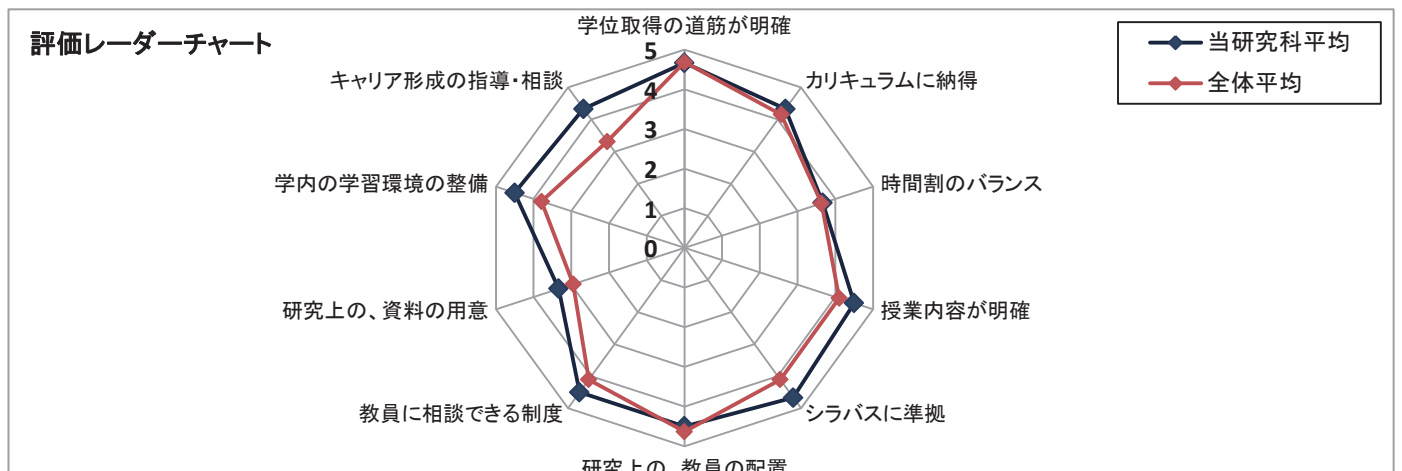
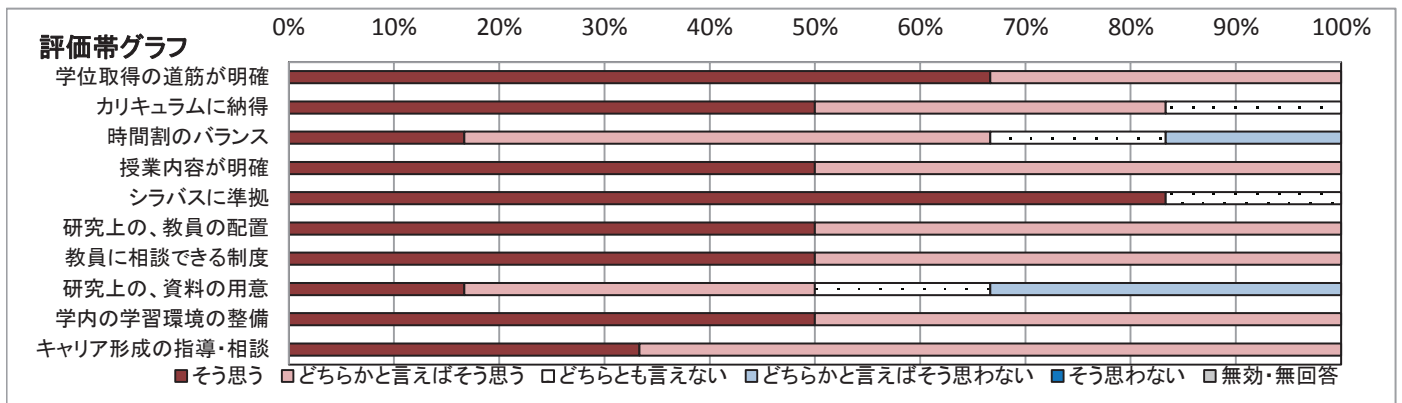
人間文化研究科

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.7	4.7	4 66.7%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6	0	0.471
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.2	4.3	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	6	0	0.745
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.6	3.7	1 16.7%	3 50.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	6	0	0.943
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.1	4.5	3 50.0%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6	0	0.500
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	4.7	5 83.3%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	6	0	0.745
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.6	4.5	3 50.0%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6	0	0.500
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	4.5	3 50.0%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6	0	0.500
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.9	3.3	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%	6	0	1.106
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.8	4.5	3 50.0%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6	0	0.500
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	4.3	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6	0	0.471



■専攻

回答者数	3
------	---

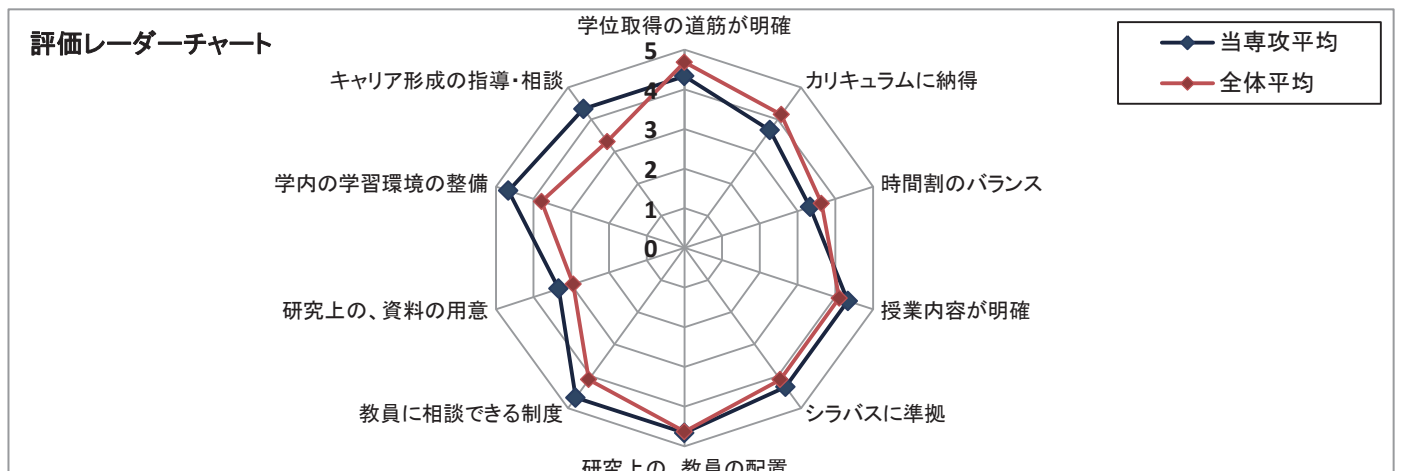
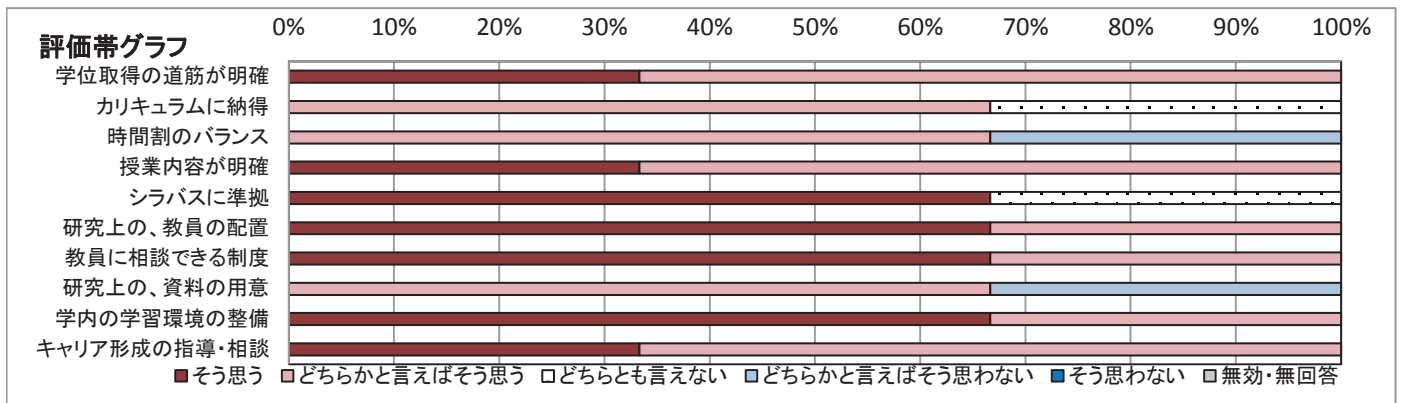
人間文化専攻

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
2   66.7%	1   33.3%	0   0.0%	0   0.0%	0   0.0%	0   0.0%	0   0.0%	3

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.7	4.3	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.2	3.7	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.6	3.3	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	3	0	0.943
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.1	4.3	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	4.3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.943
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.6	4.7	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	4.7	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.9	3.3	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	3	0	0.943
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.8	4.7	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	4.3	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471



■専攻

回答者数 3

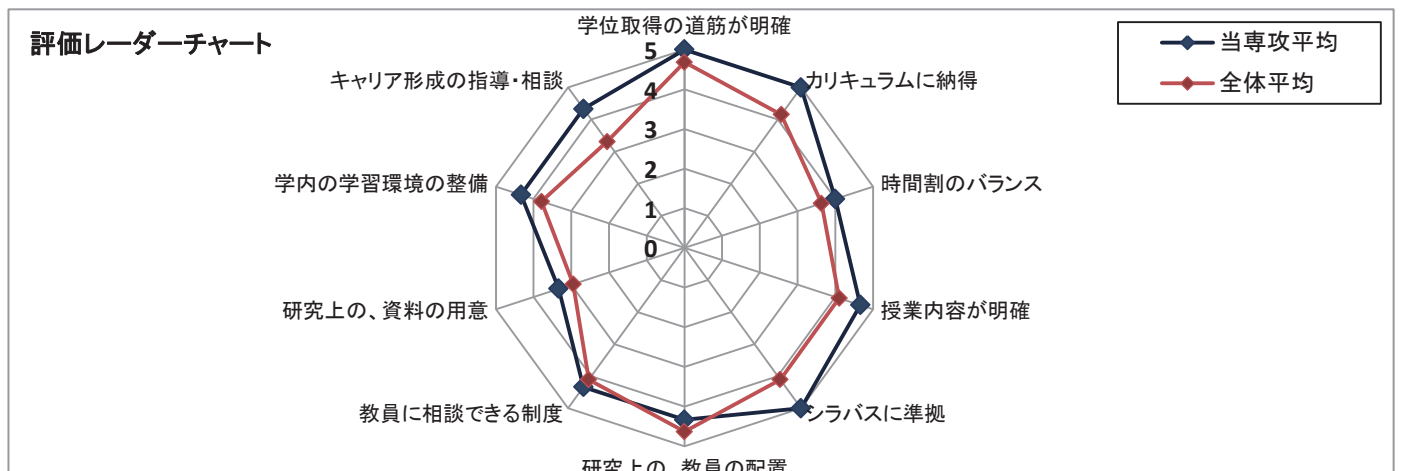
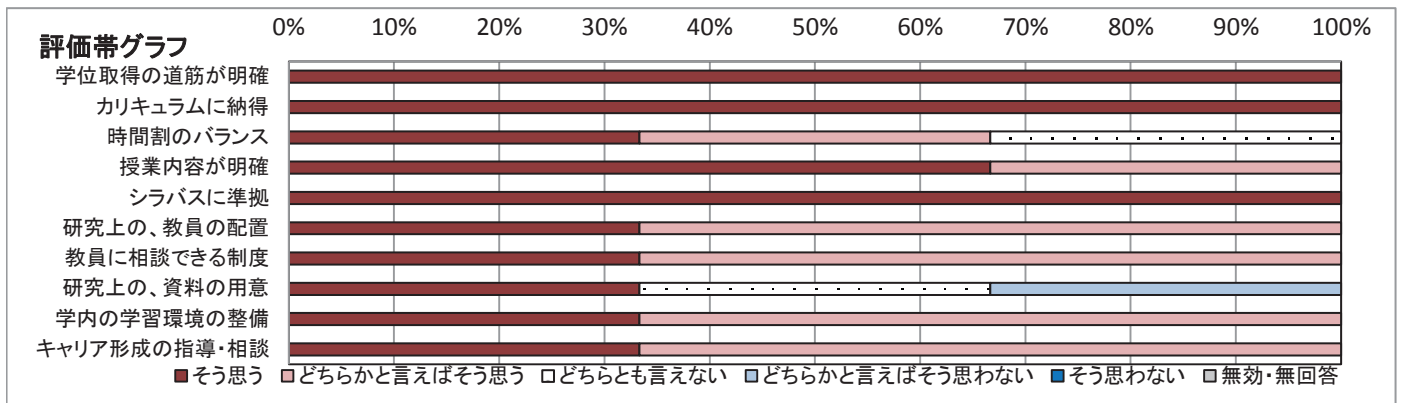
生活福祉文化専攻

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.7	5.0	3	0	0	0	0	3	0	0.000
				100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.2	5.0	3	0	0	0	0	3	0	0.000
				100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.6	4.0	1	1	1	0	0	3	0	0.817
				33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%			
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.1	4.7	2	1	0	0	0	3	0	0.471
				66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	5.0	3	0	0	0	0	3	0	0.000
				100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.6	4.3	1	2	0	0	0	3	0	0.471
				33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	4.3	1	2	0	0	0	3	0	0.471
				33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.9	3.3	1	0	1	1	0	3	0	1.247
				33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%			
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.8	4.3	1	2	0	0	0	3	0	0.471
				33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	4.3	1	2	0	0	0	3	0	0.471
				33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%			





■研究科

回答者数 13

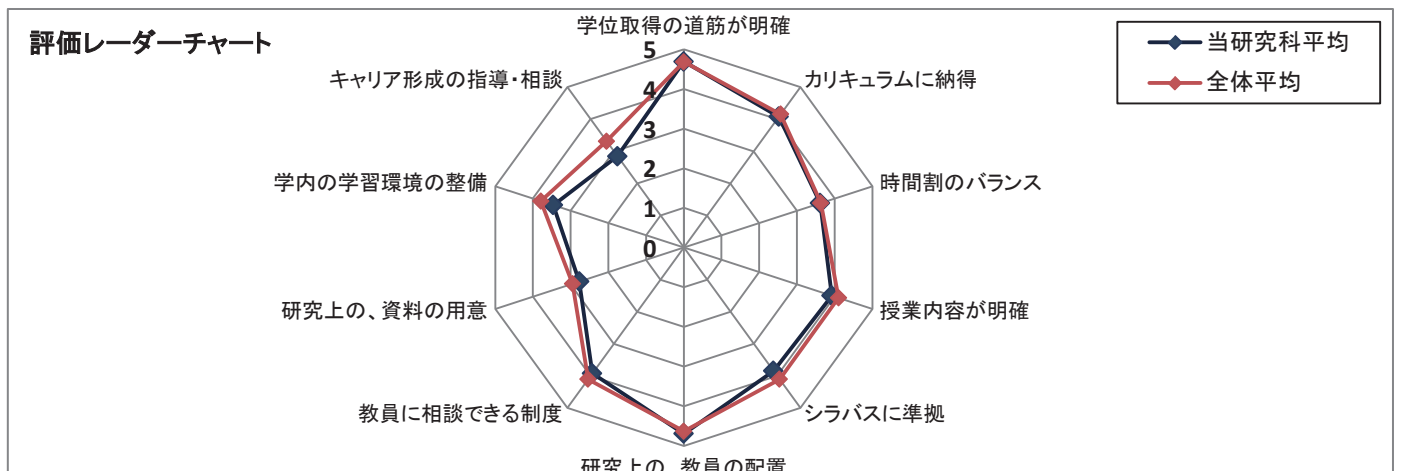
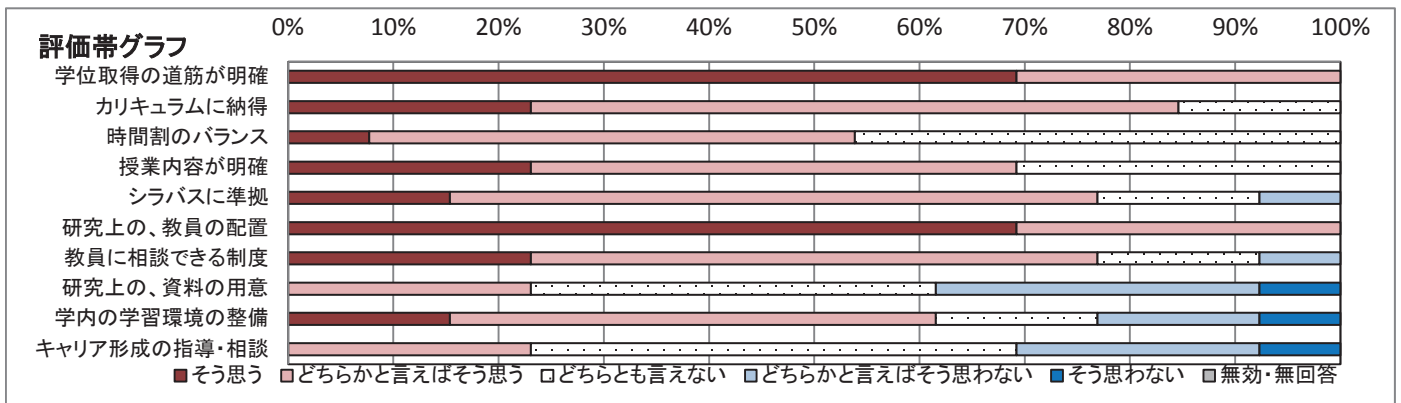
心理学研究科

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
8 61.5%	3 23.1%	0 0.0%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.7	4.7	9 69.2%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.462
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.2	4.1	3 23.1%	8 61.5%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.615
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.6	3.6	1 7.7%	6 46.2%	6 46.2%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.625
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.1	3.9	3 23.1%	6 46.2%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.730
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	3.8	2 15.4%	8 61.5%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	13	0	0.769
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.6	4.7	9 69.2%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13	0	0.462
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	3.9	3 23.1%	7 53.8%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	13	0	0.828
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.9	2.8	0 0.0%	3 23.1%	5 38.5%	4 30.8%	1 7.7%	13	0	0.890
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.8	3.5	2 15.4%	6 46.2%	2 15.4%	2 15.4%	1 7.7%	13	0	1.151
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	2.8	0 0.0%	3 23.1%	6 46.2%	3 23.1%	1 7.7%	13	0	0.863



■専攻

回答者数

3

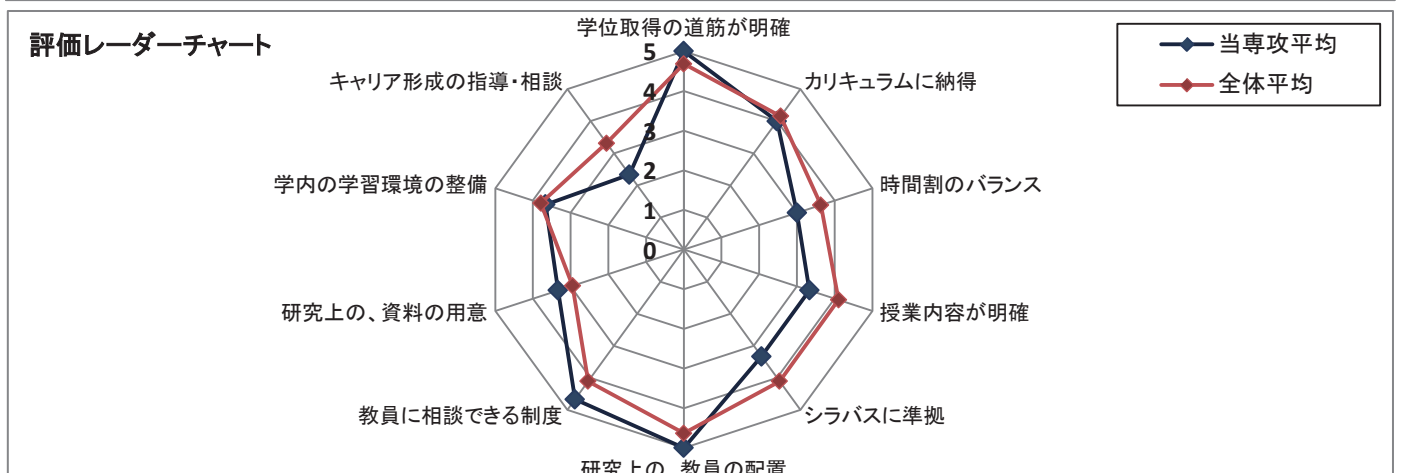
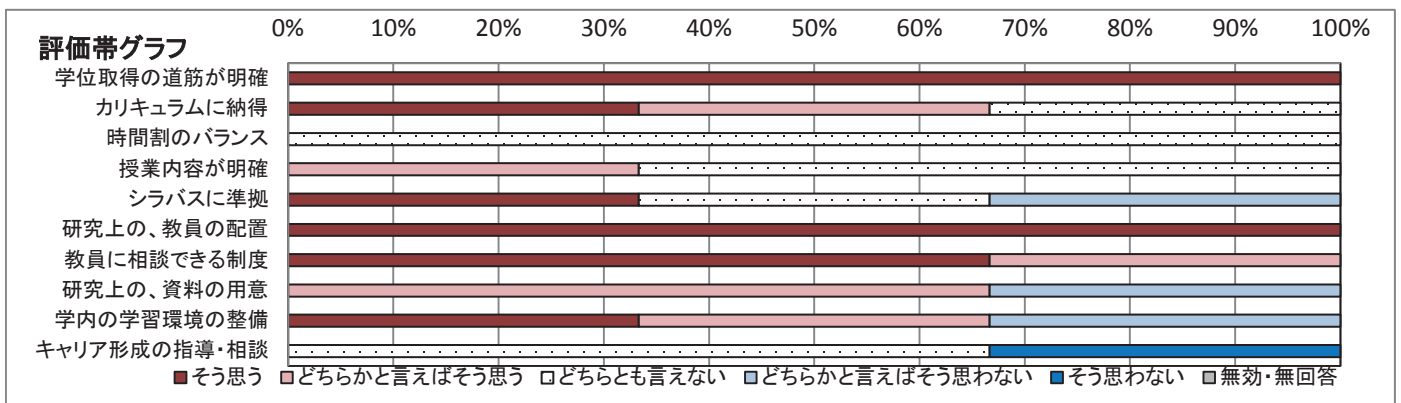
発達・学校心理学専攻

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
1   33.3%	1   33.3%	0   0.0%	1   33.3%	0   0.0%	0   0.0%	0   0.0%	3

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.7	5.0	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.000
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.2	4.0	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.817
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.6	3.0	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.000
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.1	3.3	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	3.3	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	3	0	1.247
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.6	5.0	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.000
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	4.7	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.9	3.3	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	3	0	0.943
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.8	3.7	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	3	0	1.247
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	2.3	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	3	0	0.943



■専攻

回答者数 10

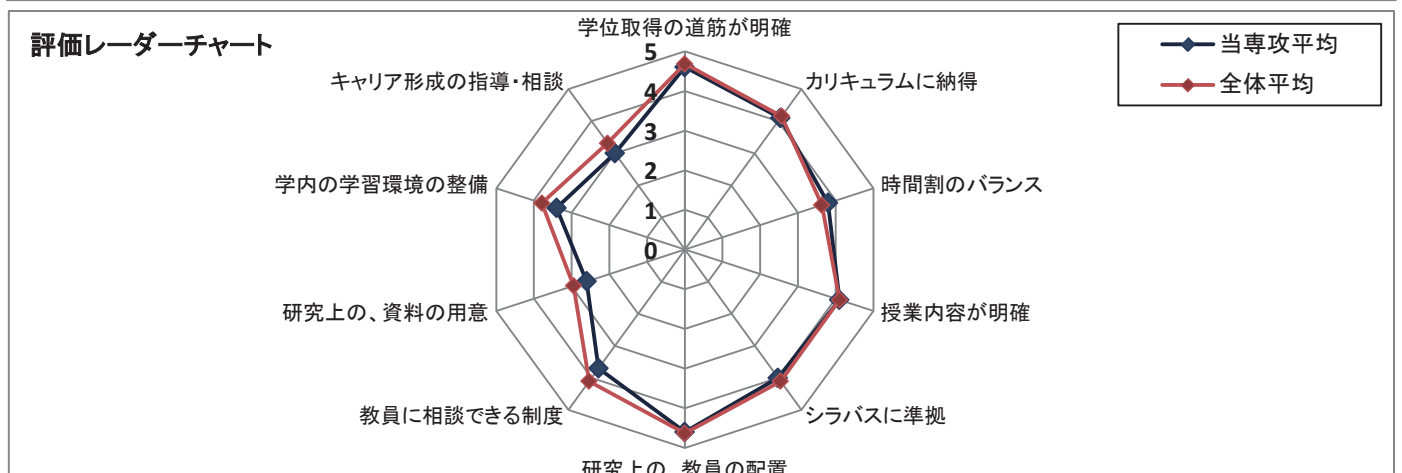
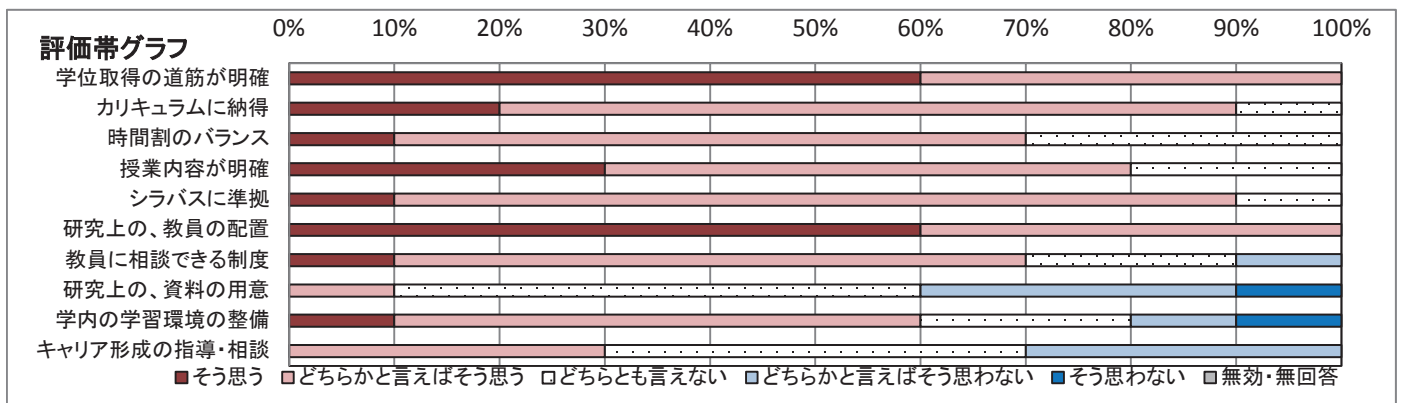
臨床心理学専攻

■学年

修士課程(M1)	修士課程(M2)	博士前期課程(M1)	博士前期課程(M2)	博士後期課程(D1)	博士後期課程(D2)	博士後期課程(D3)	計
7 70.0%	2 20.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.7	4.6	6 60.0%	4 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10	0	0.490
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.2	4.1	2 20.0%	7 70.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	10	0	0.539
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.6	3.8	1 10.0%	6 60.0%	3 30.0%	0 0.0%	0 0.0%	10	0	0.600
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.1	4.1	3 30.0%	5 50.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	10	0	0.700
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている	4.1	4.0	1 10.0%	8 80.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	10	0	0.447
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.6	4.6	6 60.0%	4 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10	0	0.490
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている	4.1	3.7	1 10.0%	6 60.0%	2 20.0%	1 10.0%	0 0.0%	10	0	0.781
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	2.9	2.6	0 0.0%	1 10.0%	5 50.0%	3 30.0%	1 10.0%	10	0	0.800
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.8	3.4	1 10.0%	5 50.0%	2 20.0%	1 10.0%	1 10.0%	10	0	1.114
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	3.0	0 0.0%	3 30.0%	4 40.0%	3 30.0%	0 0.0%	10	0	0.775





#### 4. 「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

選択式設問では①「学位取得のための道筋が明確に示されている」がもっとも高く 4.7 となっている。続いて⑥「研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている」が 4.6 を示している。②「提示されたカリキュラムは納得のいくものである」が 4.2、④「提供される科目の授業内容が明確に示されている」が 4.1、⑤「個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている」が 4.1、⑦「オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている」が同じく 4.1 である。これらのことから、カリキュラムや授業内容、指導体制に関しては、大学院生は比較的満足していることが明らかとなった。

一方、⑨「自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている」は 3.8 で、「3. どちらとも言えない」、「2. どちらかと言えばそう思わない」と答えた大学院生が約 25% いた。③「授業時間割はバランスよく配置されている」は 3.6 を示し、「3. どちらとも言えない」、「2. どちらかと言えばそう思わない」と答えた大学院生が 40% を超えた。⑩「キャリア形成に関して適切な指導、相談が行われている」は 3.3 で、半数以上が満足していない。もっとも低いのは⑧「研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている」の 2.9 でほぼ 70% が満足していない。これらの満足している設問と満足していない設問の結果は、どの専攻にも共通して言えることである。

自由記述については、「よかった点」は指導が手厚く行き届いている、先生に気軽に相談できる、など、指導体制がしっかりしていることがあげられている。「改善すべき点」として、研究資料が十分でないことやパソコン室が使えない時があったこと、修了後の進路について指導がなかったこと、スタディールームの辞書等の整備が不十分なことが記載されていた。この自由記述は、選択式回答にほぼ沿った結果を示していると言えるであろう。

キャリア形成の指導が不十分な点と必要な図書、関連資料が思うように用意されていない点が明らかになったが、これは 2014（平成 26）年度の「大学院生による教育評価アンケート」の結果とほぼ同様である。この 2014（平成 26）年度アンケート結果を受けて、2015（平成 27）年 6 月に実施された FD 研修会「大学院 FD」では、キャリア教育、学習環境、図書館の研究資料に関して、全学的に教員と職員が議論し、改善策を話し合った。しかしながら、2015（平成 27）年度も同じような結果が出てしまったことは残念である。来年度も引き続き、大学全体、研究科内、そして専攻内で、議論し、改善策を実行に移してほしい。大学院生の研究環境の整備をはかり、修了後の進路の可能性を提示できるようにすることで、本学の大学院教育をより充実させてほしいと願う。

文責：鷲見 朗子（人間文化学部人間文化学科 FD 委員）

# 2015年度 大学院生による教育評価アンケート

京都ノートルダム女子大学

このアンケートは本学大学院の教育内容の改善を目的として実施します。  
 特定の授業科目についてではなく、所属する研究科（専攻）の教育内容や教育環境について評価してください。  
 成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して、率直に答えてください。

I. あなたの学年の番号を記入してください。（※科目等履修生の方は学年記入不要です。）

回答欄

1. 修士課程(M1)      2. 修士課程(M2)      3. 博士前期課程(M1)      4. 博士前期課程(M2)  
 5. 博士後期課程(D1)      6. 博士後期課程(D2)      7. 博士後期課程(D3)

II. あなたの専攻の番号を記入してください。

回答欄

- 【人間文化研究科】 1. 応用英語専攻      2. 生活福祉文化専攻      3. 人間文化専攻  
 【心理学研究科】 4. 発達・学校心理学専攻      5. 臨床心理学専攻      6. 心理学専攻      7. 科目等履修生

III. 以下の設問について、最もあてはまる回答番号を1つ選び、記入してください。

- 5 : そう思う      4 : どちらかと言えばそう思う      3 : どちらとも言えない  
 2 : どちらかと言えばそう思わない      1 : そう思わない

回答欄

教育内容や教育環境について

- ① 学位取得のための道筋が明確に示されている  
 ② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである  
 ③ 授業時間割はバランスよく配置されている  
 ④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている  
 ⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている  
 ⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている  
 ⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている  
 ⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている  
 ⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている  
 ⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている











IV. あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「よかった点」を記入してください（自由記述）。

V. あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「改善すべき点」を記入してください（自由記述）。

### Ⅲ 2015（平成27）年度 「FD研修会」実施報告

#### 1.実施概要

2015（平成27）年度はFD研修会として3つの研修会を実施した。それぞれの研修会の形式も講演会やグループディスカッション等様々で、専任教員は、希望する1つ以上の研修会に参加した。今年度の研修会の内容等は以下のとおりである。

■ 1. 内容・テーマ：「大学院FD - 学内教員によるディスカッション -」

日時：2015（平成27）年6月11日（木）16:40～18:10

場所：ユージニア館3階 アクティブラーニングスペース

参加者：20名（教員14名 職員6名）

概要：参加者は、研究科ごとのグループに分かれて、昨年度実施した「大学院生による教育評価アンケート」の回答内容から大学院の教育内容、学習環境における課題について議論し、改善方法を検討し、各グループでの議論の内容を発表した。

■ 2. テーマ：「学生と成長しあう学生FDの取り組み事例」

日時：2015（平成27）年6月19日（金）16:40～18:10

場所：ユージニア館3階 アクティブラーニングスペース

講師 京都文教大学教務部教務課長 学生FD（FSDproject）顧問 村山 孝道 氏  
京都文教大学学生 脇田 莉帆さん、上澤 尚実さん、野村 結捺さん

参加者：33名（教員26名、職員7名）

概要：村山氏より京都文教大学の学生FD活動「FSDプロジェクト」について講演があった。引き続き京都文教大学学生3名が参加された学生FDの活動内容や活動に参加した思いや自身が成長した点などの発表があった。

■ 3. テーマ：「アクティブラーニングによって何をを目指すのか」

日時：2015（平成27）年6月25日（木）16:50～18:20

場所：ユージニア館4階 E402教室

講師：京都大学高等教育研究開発推進センター 溝上 慎一 教授

参加者：46名（教員42名、職員4名）

概要：講師によるアクティブラーニングの意義、国内外での動向、大学の授業での実践方法などについて講演された後、参加者がアクティブラーニング型授業の実践として、クリッカーを使って講師の質問に回答したり、2人1組でピアディスカッションを行った。その後参加者は話し合った内容を発表した。

■ 出席者数：

日時	内 容		コーディネーター・ 講師	人間文化学部		生活福祉文化学部	心理学部	その他（センター・職員など）	総出席者数	
	実施形態	テーマ		英語英文学科	人間文化学科					
6月11日(木) 16:40～ 18:10	教員による グループ ディスカッ ション	「大学院FDー 学内教員による ディスカッショ ン」	コーディネーター 人間文化学部 鷲見朗子 教授	1	4	2	7	6	20	
6月19日(金) 16:40～ 18:10	講演	「学生と成長し あう学生FDの 取り組み事例」	講師 京都文教大学教務 部教務課長 学生 FD（FSD project）顧問 村山 孝道 氏 コーディネーター 生活福祉文化学部 三好 明夫 准教授	6	4	11	4	8	33	
6月25日(木) 16:50～ 18:20	講演・講習	「アクティブラ ーニングによっ て何を指すの か」	講師 京都大学高等教育 研究開発推進セン ター 溝上 慎一 教授 コーディネーター 人間文化学部 鷲見朗子 教授	8	11	10	13	4	46	
参加人員（のべ数）				計	15	19	23	24	18	99
構成員数				計	15	13	17	20		65

## 2.現状と今後の課題

### (1) 「大学院FDー学内教員によるディスカッション」

今年度FD研修会の第一弾として「大学院FDー学内教員によるディスカッション」を実施し、教員および職員計20名が参加した。2014（平成26）年度の大学院生による教育評価アンケートの集計結果および自由記述をふまえ、大学院生から見た本学の大学院教育について議論した。アンケートでは、キャリア教育、学習環境、図書館の研究資料に関して問題点が指摘されていたので、それらも議論の対象となった。



大学院の教育については、これまで人間文化研究科では各専攻内、心理学研究科では研究科内でカリキュラムの見直しや授業の改善策が議論され、実行に移されてきた。しかし、今回専攻または研究科の枠組みをこえて、人間文化研究科と心理学研究科の教員が集まり、大学院の教育について話し合う機会をもてたことは大きな意義があったと思う。今回は初めての試みであったので、参加者アンケートにあったように、大学院教育のあり方など深いところまで議論できなかったが、具体的に大学院生が不満に感じている点を教職員が共有し、それについて自覚をもってもらえたのではないかと考える。関係部署の職員にも参加してもらい、大学全体で大学院教育をよりよくしていこうという気持ちが再確認されたように感じた。

## (2) 「学生と成長しあう学生 FD の取り組み事例」

京都文教大学の教務部教務課長学生 FD 顧問の村山孝道氏を講師にお迎えし、同大学の学生 FD 活動について講演をしていただいた。同大学の学生 3 名も、各自が参加した FD 活動の内容やそこから学んだことについてのプレゼンテーションをおこなった。研修会は、33 名の参加があり、参加者アンケートでは約 60%の参加者が「大変有意義であった」、そして残りの約 40%が「有意義であった」と回答し、満足度の高い研修会となった。

FD 活動が教務課長という職員によって主導されていることに刺激を受けただけでなく、学生が主体性をもって企画を行い、授業にも参加していく姿を目の当たりにして、京都文教大学における学生 FD 活動の成果を実感した。参加者アンケートには、この講演を聞いただけで終わらず、本学でもこのような学生の力を引き出す仕組みを設けていくことが大切だと思ふ等の記載があった。

## (3) 「アクティブラーニングによって何をを目指すのか」

京都大学高等教育研究開発推進センターの溝上慎一教授に「アクティブラーニングによって何をを目指すのか」という題目の講演を行っていただき、参加者がペアを組み、ディスカッションをした。参加者は 46 名であった。事後アンケートでは約 60%の参加者が「大変有意義であった」、約 30%が「有意義であった」と回答し、これも満足度の高い結果となった。

実際に授業に生かせそうな実践的な方法を学んだほか、クリッカーを使って学生を授業に参加させる指導法も体験した。アンケートの自由記述によると、講師が教育顧問をつとめている桐蔭学園の生徒自身が話しているビデオはインパクトがあったようである。「講義の脱却」、「理解を表現する」、「課題を前にしたときの能力」などのキーワードが心に残った参加者が見られた。一方、「もう少し中級・上級の内容が聞きたかった」、「対人不安の高い学生や学習意欲の低い学生にどのような対応をすればいいのか教えてほしい」という声も聞かれた。今後、各教員がこの研修会で学んだことを各自の授業に取り入れ、学生がよりアクティブになる学びを作り上げてほしい。

今年度の 3 つの FD 研修会を振り返って感じるのは、これらで学んだことをいかに本学の教育に生かしていくかが重要ということである。見てきたように、研修会では、本学大学院教育の現状の認識に始まり、学生 FD やアクティブラーニングに関するさまざまな考えや手法、取り組みが紹介され、多くの教職員が刺激を受け、勉強になったと回答している。今後の課題は、これらを起点とし、本学にふさわしい取り組みを模索し、実行していくこ

とであろう。3つ目のアクティブラーニングは、個々の教員がヒントを得て、実践していくことができる部分があると思うが、大学院FDや学生FDは大学全体がシステムを作って実行していかなければ前進していくことは難しいのではないだろうか。将来FD研修会での学びが大学運営に生かされ、本学の教育の向上に、より大きな成果をあげていくことを期待したい。

文責： 鷺見 朗子（人間文化学部 人間文化学科 FD 委員）

## IV 2015（平成 27）年度「オープンクラス」実施報告

### 1.実施概要

オープンクラスによる授業参観は、教員同士が互いの授業を公開し授業内容や方法について検討しあうことによって、授業方法に関する知識や技能を共有できるなど、多くのメリットがあることから、本学では 2011（平成 23）年度より実施している。

2015（平成 27）年度は、前期 2 週間、後期 3 週間のオープンクラス・ウィークを実施した。オープンクラス・ウィーク期間中は、原則として全ての授業を、本学の教職員と学生を対象に公開した。授業参観者から提出されたコメントシートの内容は、授業担当教員へ伝えた。

#### 2015（平成 27）年度「オープンクラス」実施状況

オープンクラス・ウィーク実施期間	のべ参観者数	参観者コメントシート提出数
6 月 15 日(月)～6 月 26 日(金)	25	47
10 月 26 日(月)～11 月 13 日(金)	23	32

### 2.現状と今後の課題

2015(平成 27)年度「オープンクラス」では、前期がのべ参観者数が 25 名であり、参観者コメントシート提出数は 47 であった。後期の状況ではのべ参観者数が 23 名で、参観者コメントシート提出数は 32 であった。2014(平成 26)年度の状況をみても、前期の参観者数が 45 名で参観者コメントシート提出数 53、後期の参観者数が 23 名で参観者コメントシート提出数が 25 あった。2014（平成 26）年度と比較すると、前期ではのべ参観者数がかなり減少している。2015（平成 27）年度とそれほど変わらない時期に実施したにもかかわらず、参観者数がこれほど減少した原因については、今後しっかりと検証していく必要がある。しかし、のべ参観者数の著しい減少が見られたものの、参観者コメントシート提出数は大きく減少していない。むしろのべ参観者数からすれば、コメントシートの提出数は多いといえる。なお、後期の比較ではのべ参観者数は同数であったものの、コメントシート提出数は増加していることに着目したい。コメントシートの提出が多いということは、より多くの授業参観がなされたことになるので、この傾向は今後も続いてほしいものである。

昨年度は前期に比べて、後期の参観者数がほぼ半数に減少した傾向は、今年度に関しては大きな差は見られなかったが、コメントシートの提出数は少なくなっているため、後期の実施時期などについての再検討が必要である。これまでの課題の継続となるが、オープンクラスの授業参観を行わない教員に対しての啓発を行っていく必要がある。コメントシートは参観する者、参観される者にとって授業のあり方や質の向上のために有効に作用していくものであると考えるので、例えば、コメントシートの活用によって一定成果をあげた事例の報告等を行い、オープンクラスに参観することの必要や意義を感じてもらえるようにしていくことも策の一つとして考えられる。

また、オープンクラス実施・参観シートの自由記述に「いつでも公開可能である」という意見とともに「守秘性が高い授業以外、いつでも参観できるとよい」という意見があっ

たが、このことと関連して「忙しくて参加が難しいがオープンクラスは必要である」という意見もあり、オープンクラスに対して積極的な教員がいること、同時にオープンクラスが必要を感じながらも日程調整がうまくいかず参加できない教員がいると考えられるので、オープンクラス・ウィークの実施時期、期間を今後も検討していく必要があるだろう。

文責: 三好 明夫 (生活福祉文化学部生活福祉文化学科 FD 委員)

## V 2015 (平成 27) 年度 全学 FD 教員研修会実施報告

### 1. 実施概要

全学FD教員研修会は、全教員が一同に集まるFD研修会として2008（平成20）年度より実施している。今回の研修会では、講師に関西大学教育推進部准教授 森朋子先生を迎え、教育全体の大きな変化と認知理論的背景に加えて、森先生が複数のフィールドワークを実施された結果から見てきたアクティブラーニングが抱える課題について講演がされた。ご講演の後、講演内容を実際に担当の授業に結び付けるワークショップを行い、アクティブラーニングに関する学びを深めた。

■ 日 時：2016（平成 28）年 3 月 9 日(水) 10：00 ～ 12：00

■ 場 所：ユージニア館 大講義室

■ 講 師：関西大学教育推進部 森朋子准教授

■ タイトル:アクティブラーニングを考える –「わかったつもり」を「わかったに」–

■ 出席者数：

副学長	人間文化学部		生活福祉 文化学部	心理学 部	教員 出席者	教員 現員数	参加率	職員
	英語英文 学科	人間文化 学科						
1	10	12	15	13	51	65名	78.4%	4名

### 2. 現状と今後の課題

2015(平成 27)年度の全学研修会は、FD 委員による話し合いの結果、アクティブラーニングの基礎を再学習するために、アクティブラーニングに熟知しており他大学での研修実績も豊富である講師を招聘した。なお、昨年度と同様に事前に届け出た欠席者については大学コンソーシアム京都の FD フォーラムへの参加を義務付けた。

昨年度は 6 時間という長時間の演習スタイルであったが、今年度は午前の 2 時間に凝縮することとした。教員の参加率は昨年度の 63.6%から今年度は 78.8%に増加しており、参加意欲の向上が感じられる。

研修は、まず、アクティブラーニングの導入推奨がなされていく教育政策にあって、教育全体の変化と認知理論的背景および各所で実施したフィールドワークの結果からアクティブラーニングの現状や課題について解説がなされ、この課題を乗り越えるために知識と能力の双方を獲得するために必要な授業デザインの提案がなされた。この報告講演を受けて参加者は自身の授業に結びつけるために必要なワークショップを指定グループ別に行った。ワークは指定フォーマットである「知識定着型 DAL (Deep Active Learning) を創ろう」シートにまずは個人ワークで、授業名や達成目標、授業の流れ、それに連動する学生の活動について講演で学んだ内化、外化に整理して記載していく、その後グループで共有討議してグループとして理想的な知識定着型 DAL 授業概要を提案するというものであった。

参加者アンケートの結果は「大変有意義であった」52.3%、「有意義であった」43.2%、「あまり有意義でなかった」2.3%、「有意義でなかった」0%、「無回答」2.3%であり、「大変有意義であった」、「有意義であった」を合わせると 95.5%となり、有益な研修であったといえる。自由記述では「実用的」「有意義」「重要性の気づき」「自身の授業に取り入れた

い」「ワークがあってよかった」などの肯定的な意見が大半であった。少数意見としては「ワークより講義を」「もう少し時間があればよかった」という記載もあった。

来年度の研修計画としては、今後の FD 活動に重要だと思う内容や取り組んでみたい内容の結果では、どちらも「学力不足学生への学習支援」が最も多かった。その他多いものとしては「キャリア教育」「学修成果の可視化」「学修時間の確保」「e ラーニング」も回答が多く寄せられたので、こうした意見も参考にして、本学での教育力向上に向けての研修が実施される必要があるだろう。

文責: 三好 明夫 (生活福祉文化学部生活福祉文化学科 FD 委員)

## FD 委員会構成員

委員長	廣瀬	直哉	(心理学部 心理学科)
委員	吉野	啓子	(人間文化学部 英語英文学科)
委員	鷺見	朗子	(人間文化学部 人間文化学科)
委員	三好	明夫	(生活福祉文化学部 生活福祉文化学科)
事務局	研究・情報推進課		

京都ノートルダム女子大学

2015 (平成 27) 年度 FD 報告書

---

2016 (平成 28) 年 5 月 30 日発行

編集 京都ノートルダム女子大学  
FD 委員会 (事務局: 研究・情報推進課)

発行 京都ノートルダム女子大学  
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町 1 番地  
TEL (075) 781-1173 FAX (075) 706-3707  
ホームページ <http://www.notredame.ac.jp>

授業評価アンケート  
教育評価アンケート 株式会社 教育ソフトウェア  
集計結果表作成

印刷 株式会社 田中プリント

---









## 京都ノートルダム女子大学 FD委員会

〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地

TEL 075-781-1173 FAX 075-706-3707

ホームページ <http://www.notredame.ac.jp>